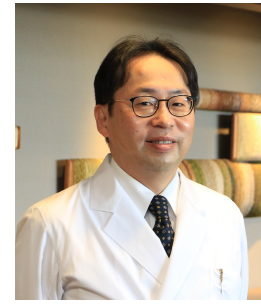


知多厚生病院 | 年報

(令和 3 年度)



発刊にあたり（ご挨拶）

知多厚生病院 院長 高橋 佳嗣

知多厚生病院は、1964年（昭和39年）6月に愛知県厚生連9番目（当時）の病院として開設され、以後知多半島南部における急性期医療と救急医療の拠点病院として診療に携わってまいりました。平成11年からは知多半島医療圏の第二種感染症指定医療機関、平成14年からは篠島や日間賀島など離島医療を支援するへき地医療拠点病院、平成16年からは臨床研修指定病院、平成19年からは災害拠点病院に指定されるなど、知多半島南部の公的医療機関として重要な責務を果たしております。

当院の主な診療圏である美浜町・南知多町では、愛知県の平均よりも人口減少・少子高齢化が大きく進行しているとともに、地域の各医療機関においても医師の高齢化も進み、医療の確保が難しくなってきました。

このような医療環境においても皆様が「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる（Aging in Place）」ように当院では急性期医療・亜急性期医療・救急医療・在宅医療などの提供を通して地域包括ケアシステムの一角を担い地域の医療を支えております。

さて、令和3年度の医療情勢を振り返ると前年度に引き続き新型コロナウイルスの対応に追われた一年でありました。当院では地域の流行度に合わせて院内の医療提供体制も変化させながら、接触者外来・発熱外来 4,315名、入院患者延べ 1,608名（実患者 199名）の診療を行い、この地域の新型コロナウイルス感染症治療の中心的役割を努めてきました。さらに一般診療においても救急搬送件数は前年度比 116%、紹介・逆紹介の件数もそれぞれ前年度比 110%・117%増と地域の医療ニーズに応えてきました。

このような一年を過ごした現在、あらためて健康が人々の生活の根源であり、医療がその根源を支えていることを実感しております。

今後も知多厚生病院は『保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献する』という病院理念に基づき、地域とともに地域を考え、『Aging in Place 知多半島モデル』を構築し、さらにこの地域の『まちづくりの拠点』としてもお役に立てますよう、職員一同全力を尽くし取り組んで参ります。引き続き皆様のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

令和4年12月

病院基本情報

知多厚生病院 理念

私たちは保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。

知多厚生病院 基本方針

- 1、地域住民のニーズに応える診療体制の充実に努めます。
- 1、救急医療・災害医療の充実に努めます。
- 1、医療技術と接遇向上に努めます。
- 1、患者の権利とプライバシーを尊重し、安全で快適な、患者中心の医療サービスを提供します。

*ロゴマークについて

ロゴマーク全体で、知多厚生病院（Chitakosei Hospital）の頭文字“C”と、知多半島を表しています。

また、右下の2つの四角は、篠島・日間賀島を、丸は、知多半島における当院の位置を表しています。

全体として、知多半島をイメージさせる海・空の色である明るい青を基調に、開放感・希望を、知多半島全域で盛んな農業（JA）をイメージさせる明るい緑は安心・安全・癒しを、美浜町を中心に栽培が盛んなみかんや、太陽をイメージさせる明るいオレンジは、躍動感・歓喜・溢れる生命感を表しています。



知多厚生病院 概要

令和4年3月31日 現在

名 称

愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院

所在地

〒470-2404

愛知県知多郡美浜町大字河和字西谷81番地6

TEL 0569-82-0395

FAX 0569-82-4333

E-MAIL c-hospital@chita.jaaikosei.or.jp

ホームページ <https://chita.jaaikosei.or.jp>

設立年月日

昭和39年6月1日

病床数

199床（一般193床（地域包括ケア病棟85床含む） 感染症6床）

診療科（25科）

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科・血液内科・小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・肛門外科・内視鏡外科・血管外科・整形外科・リウマチ科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

各種指定

救急告示病院、地域災害拠点病院、へき地医療拠点病院、臨床研修指定病院、労災指定医療機関、母体保護法指定医療機関、生活保護法指定医療機関、指定自立支援医療機関、更生・育成医療指定医療機関、養育医療指定医療機関、性病予防法指定医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、健康保険法指定医療機関、国民健康保険指定医療機関、第2種感染症指定医療機関、肝疾患専門医療機関、病院群輪番制病院、特定疾病治療研究医療機関、小児慢性特定疾病治療研究医療機関、愛知DMA T指定医療機関、人間ドック健診施設機能評価認定、医療被ばく低減施設認定

関連施設

知多厚生病院健康管理支援センター
南部知多訪問看護ステーション
知多厚生病院附属篠島診療所

管理者

病院長： 水野 志朗
副院長： 脇田 郷、高橋 佳嗣、村元 雅之
第1診療部長： 村元 雅之 第2診療部長： 富本 茂裕
診療協同部長： 迫 欣二 医療情報部長： 中塚 雅雄
薬剤部長： 齋藤 宏明 看護部長： 近藤 貴代
地域医療福祉連携部長： 福島 庸行 事務部長： 池田 智志

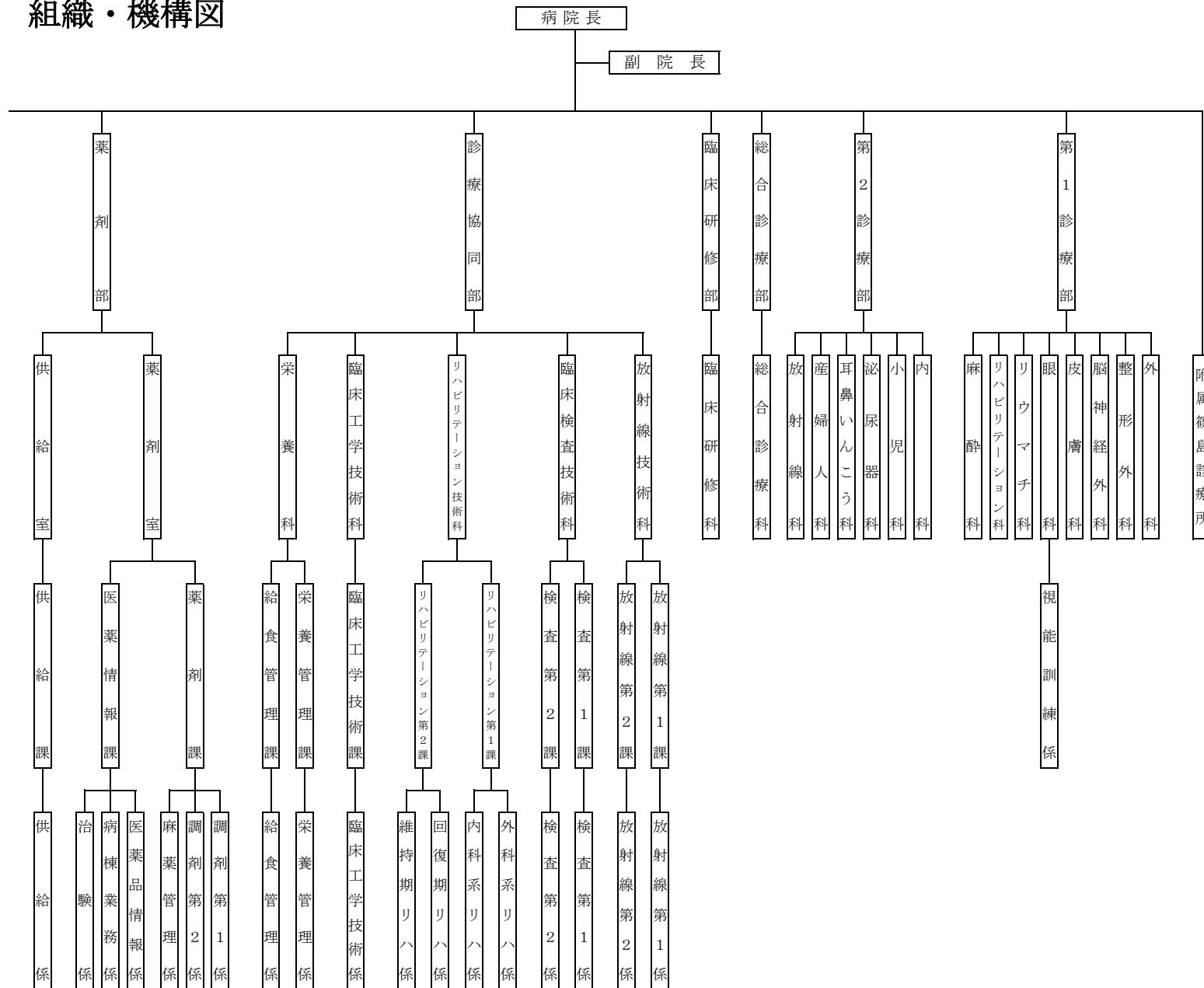
知多厚生病院 沿革

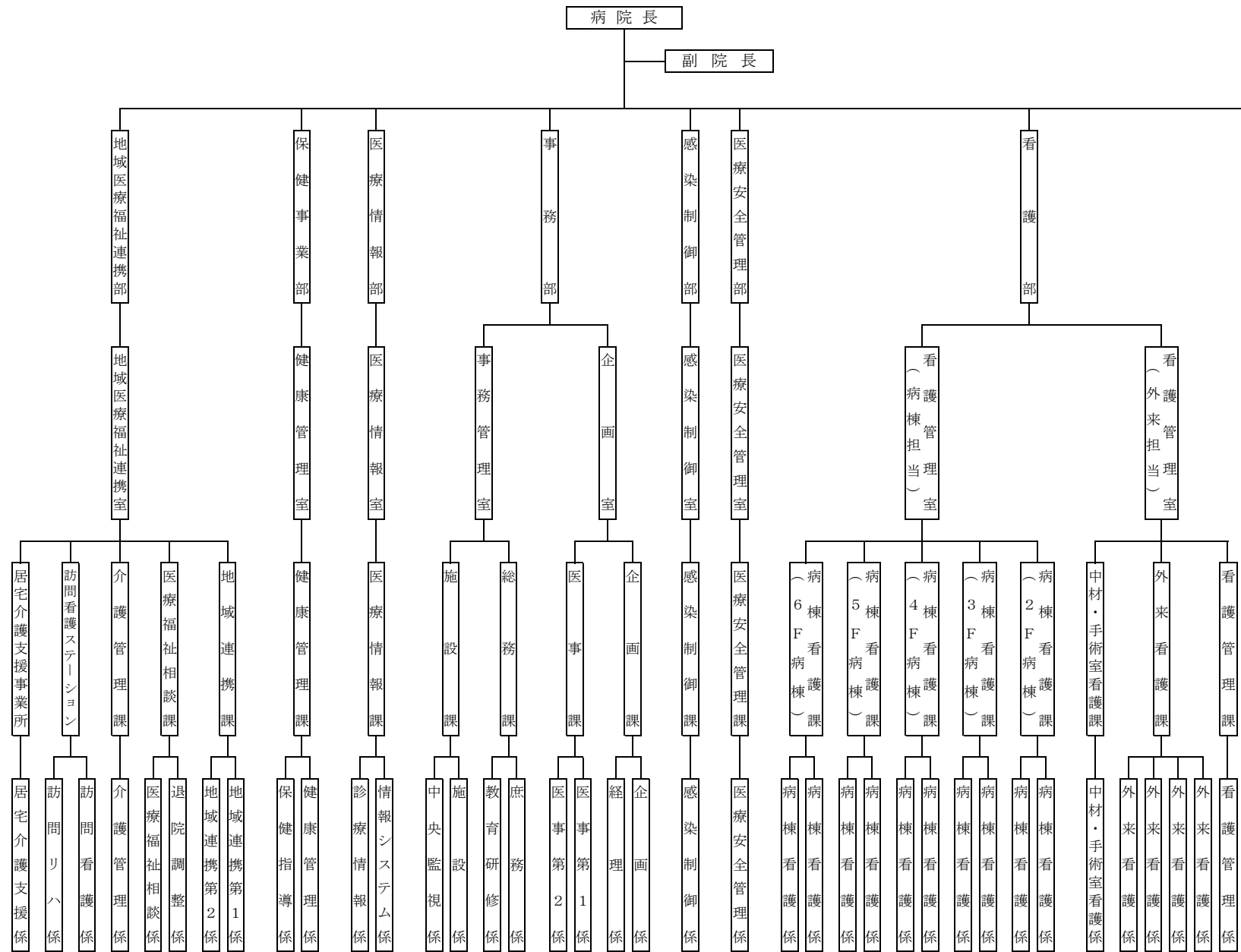
令和4年3月31日 現在

昭和38年	3月	知多郡美浜町河和に厚生連病院建設決定
昭和39年	6月	知多厚生病院診療開始 内科・外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科 病床数 113床
昭和42年	3月	美浜町・南知多町伝染病組合伝染病舎24床併設 (病床数 137床)
昭和43年	10月	病棟増築(病床数 179床)
昭和49年	7月	救急医療施設開設 整形外科開設 病棟・リハビリ棟増築(病床数 217床)
昭和54年	2月	総合病院として認可
昭和55年	6月	厨房の整備 病棟増築(病床数 222床)
昭和57年	3月	診療棟増改築
	4月	小児科開設
	6月	皮膚科開設
昭和58年	1月	放射線科開設
	2月	病棟増改築・伝染病舎改築(病床数 277床)
平成3年	10月	知多厚生病院附属篠島診療所開設
平成6年	4月	脳神経外科開設
平成8年	4月	泌尿器科開設
平成9年	10月	南部知多訪問看護ステーション開設
平成10年	3月	病棟改築(病床数 一般260床・伝染8床)
平成11年	4月	第2種感染症指定医療機関指定 (病床数 一般260床・感染6床)
平成11年	10月	居宅介護支援事業所 知多厚生病院介護保険センター開設
平成14年	2月	療養型病床開設(病床数 一般212床・療養48床・感染6床)
	4月	へき地医療拠点病院指定
平成15年	5月	病床区分変更(病床数 一般206床・療養54床・感染6床)
	10月	臨床研修病院指定
平成16年	5月	オーダリングシステム稼働

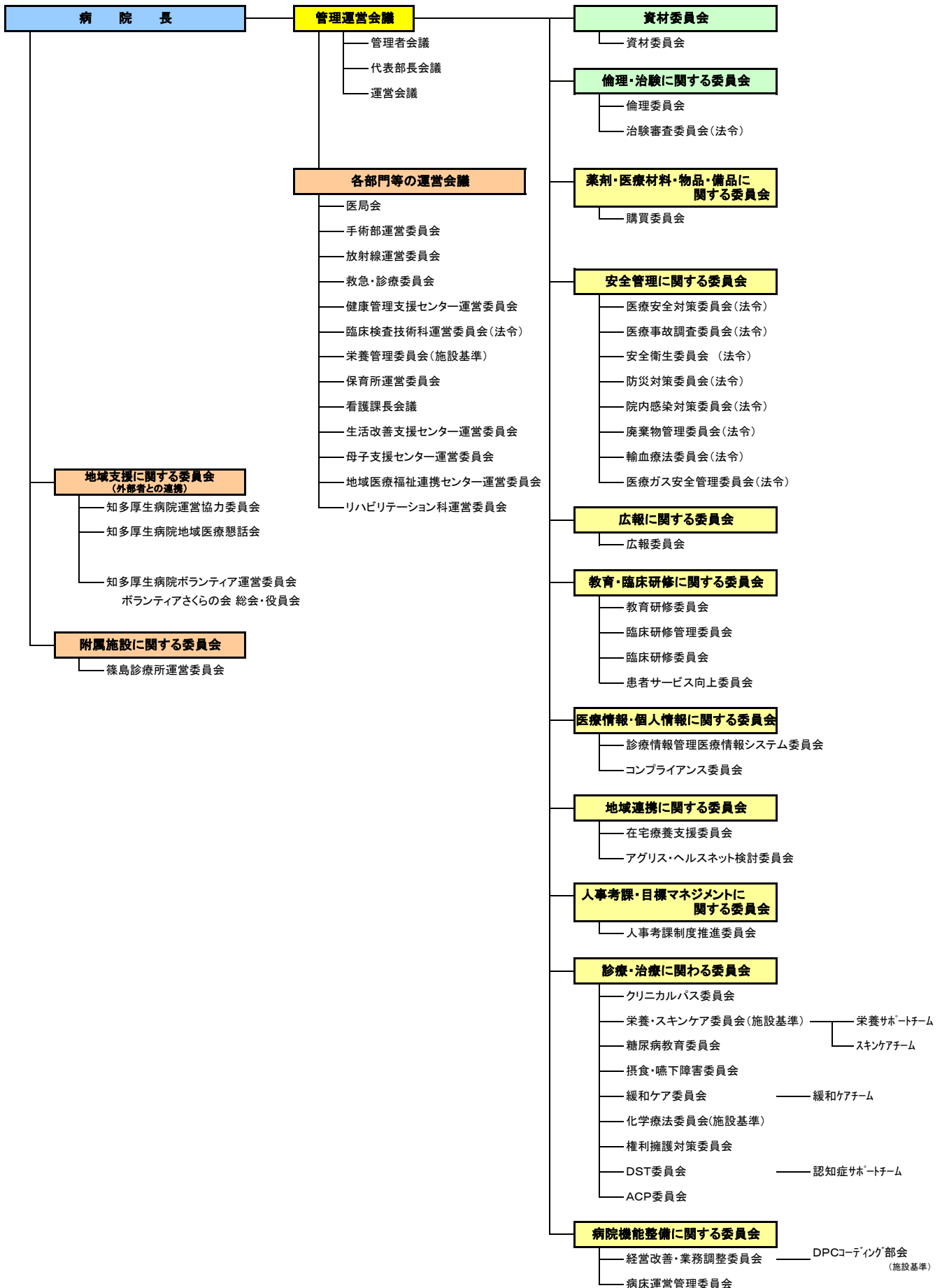
平成19年	3月	災害拠点病院指定
	7月	病院機能評価認定（Ver. 5.0）
平成21年	8月	診療棟改築
		電子カルテシステム稼働
		ID-Link導入
平成22年	9月	病床区分変更（病床数 一般199床・療養54床・感染6床）
平成23年	7月	病院機能評価認定（Ver. 6.0）
平成23年	9月	7対1入院基本料取得
平成25年	12月	DMA T（災害派遣医療チーム）結成
平成26年	4月	DPC（診断群分類）対象病院
	6月	回復期リハビリテーション病棟開設
		（一般〔7対1看護基準〕149床、回復期リハ50床、療養54床、感染6床）
	9月	開院50周年記念式典・病院祭開催
平成27年	7月	認知症対応力向上事業実施病院
平成28年	4月	DMA Tを派遣（熊本地震）
平成29年	1月	厨房改修工事完工
	3月	電子カルテシステム更新
平成29年	5月	医療被ばく低減施設認定
	7月	人間ドック健診施設機能評価認定
平成30年	2月	地域包括ケア病棟開設
		（回復期リハビリテーション病棟より転換）
		（一般〔7対1看護基準〕149床、地域包括ケア50床、療養54床、感染6床）
平成30年	12月	病床区分変更
		（一般〔7対1看護基準〕157床、地域包括ケア42床、療養54床、感染6床）
平成31年	2月	オンライン診療・オンライン服薬指導開始
令和 元年	5月	ホームページリニューアル
		CT装置更新
令和 2年	2月	感染症病棟 COVID-19疑い患者受け入れ
令和 2年	3月	COVID-19帰国者・接触者外来を開設
		COVID-19発熱外来を設置
令和 2年	8月	病床削減・病床区分変更（療養病床廃止）病床数199床
		（一般〔7対1看護基準〕108床、地域包括ケア85床、感染6床）
令和 3年	5月	感染症病床8床をハイケアユニット入院管理料に届出
		コロナワクチン接種開始
令和 4年	1月	アンギオ装置更新
令和 4年	2月	自動分析装置更新

組織・機構図





知多厚生病院 会議・委員会組織図



環境認識	<p>当院の主な診療圏である美浜町、南知多町は、少子高齢化、人口減少が著しく進んでいる地域であるが、医療や介護を必要とする高齢者数は一定数の需要が残る地域でもある。当院は、知多半島南部における唯一の公的医療機関として、救急をはじめとした政策医療を担う当院の果たすべき役割をさらに明確化し、地域連携をより強固なものとして、地域の需要に応じていく必要がある。反面、少子化による働き手の減少は、よりいっそう深刻化することが想定され、看護師や介護職、調理員だけでなく、委託職員確保などの雇用確保対策が必要となる。それと同時に、医師不足は顕著な課題であり、今後、雇用に関わる取り組みは働き方改革は勿論のこと、医師確保などでは大胆且つ壮大な取り組みの検討が必要となる。</p> <p>私たち知多厚生病院は、「保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します」という理念のもと、改めて知多半島南部地域における唯一の中核病院かつ公的医療機関としての役割を再確認するとともに、時代の変化に合わせた自らの改革を積極的に検討するとともに、経営の効率化を中心とした持続可能な病院経営を目指すことが求められている。</p>
基本方針	<p>地域における我々の役割を再認識するとともに、下記項目において前向き且つ変革を伴う行動を実践する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知多半島医療圏の医療機関や施設との連携を強化し、地域全体で患者に安全で良質な医療を提供できる体制の構築を検討する（地域医療構想と地域包括ケアシステムの推進） 2. 救急医療を中心とした地域における急性期医療を担う病院として、救急患者や紹介患者の積極的な受け入れを行うとともに、限られた病床資源を有効活用する手立てを職員全員で検討する 3. 地域の高齢者介護需要を的確に分析し、当院の果たすべき役割に則った高齢者介護及び福祉事業を構築する 4. これまで培ってきた災害医療の分野、へき地医療の分野、及び感染症医療の分野について、継続して知多半島医療圏における中心的な役割を担う 5. 職員一人ひとりがやりがいを持って働けるよう地域に根ざした病院づくりを目指すとともに、医師をはじめとした医療・介護従事者が当院で働きたいと思えるような風土づくりに邁進する

重点事項		目標達成のための具体的行動計画
	実施目標	
① 診療機能の充実	救急医療体制の維持	不応需件数の減少
	診療体制の整備	各科診療体制の検討（医師確保） 紹介患者受入体制の整備 患者の容態に応じた病床の運用 初期研修医・専攻医の確保 要員の確保と適正配置
	災害拠点病院の充実	災害訓練や職員に対する研修の実施
	へき地医療拠点病院の充実	離島医療（篠島診療所）の維持 へき地医療研修の継続
	診療支援機能の強化	効率的な薬剤管理指導 効率的なりハビリ提供体制の検討 栄養指導の充実
	② 医療の質、安全強化	
医療安全の充実	医療安全教育・研修の開催（出席者数の増加と周知の徹底）	
感染対策の更なる質の向上	関係機関との連携、データ活用の検討 研修会の開催 ICT、ASTラウンドの継続実施	
医療の質向上	検査件数増による医療の質向上（CT・MRIの活用） 診療録管理の効率化 患者サービスの向上	
チーム医療の推進	多職種が協同した専門的ケアチームの活動の拡大	

③ 地域との連携強化	
地域連携の強化	<p>関連機関への訪問 地域医療構想を意識した地域基幹病院（半田・常滑）との連携構築 退院支援、在宅復帰支援体制の充実</p>
行政・医師会・JA・住民との連携	<p>美浜町・南知多町との定期協議の継続 地元医師会との連携強化 JAとの連携強化 地域への情報発信方法の研究（広報等との連動）</p>
④ 保健事業	
健診事業の充実	<p>健診項目の見直しと価格の適正化 新たな保健収益事業増収案の検討</p>
保健事業活動の充実	生活改善支援・母子支援活動の充実
⑤ 福祉・介護事業	
福祉・介護事業の充実	<p>療養病床の今後の方針検討 介護職要員の確保 福祉介護サービスの機能再検討 地域包括ケアシステムへの取り組み</p>
⑥ 経営管理	
経営危機脱却に向けた取り組み	<p>効率的な病床運営（病棟別に目標稼働率を設定した進捗管理） 7対1看護基準の維持（入院料1の維持） 各部署の必要人員の精査及び適正化 経費削減などコスト管理及び職員個々のコスト意識の醸成 委託業務の見直しと最適化 各種データをもとにした院内機能の見直しや新たな対策の研究</p>
広報活動の強化	<p>住民公開講座及び患者教室の再構築 地元メディアや企業との連携</p>
⑦ その他	
教育研修機能の充実	<p>地域医療を支える人材の育成 各職種の専門スキル向上</p>
職場環境の向上	<p>働き方改革に伴う各種取り組みの実践 医師をはじめとした、職員にとって魅力ある職場づくりの検討</p>



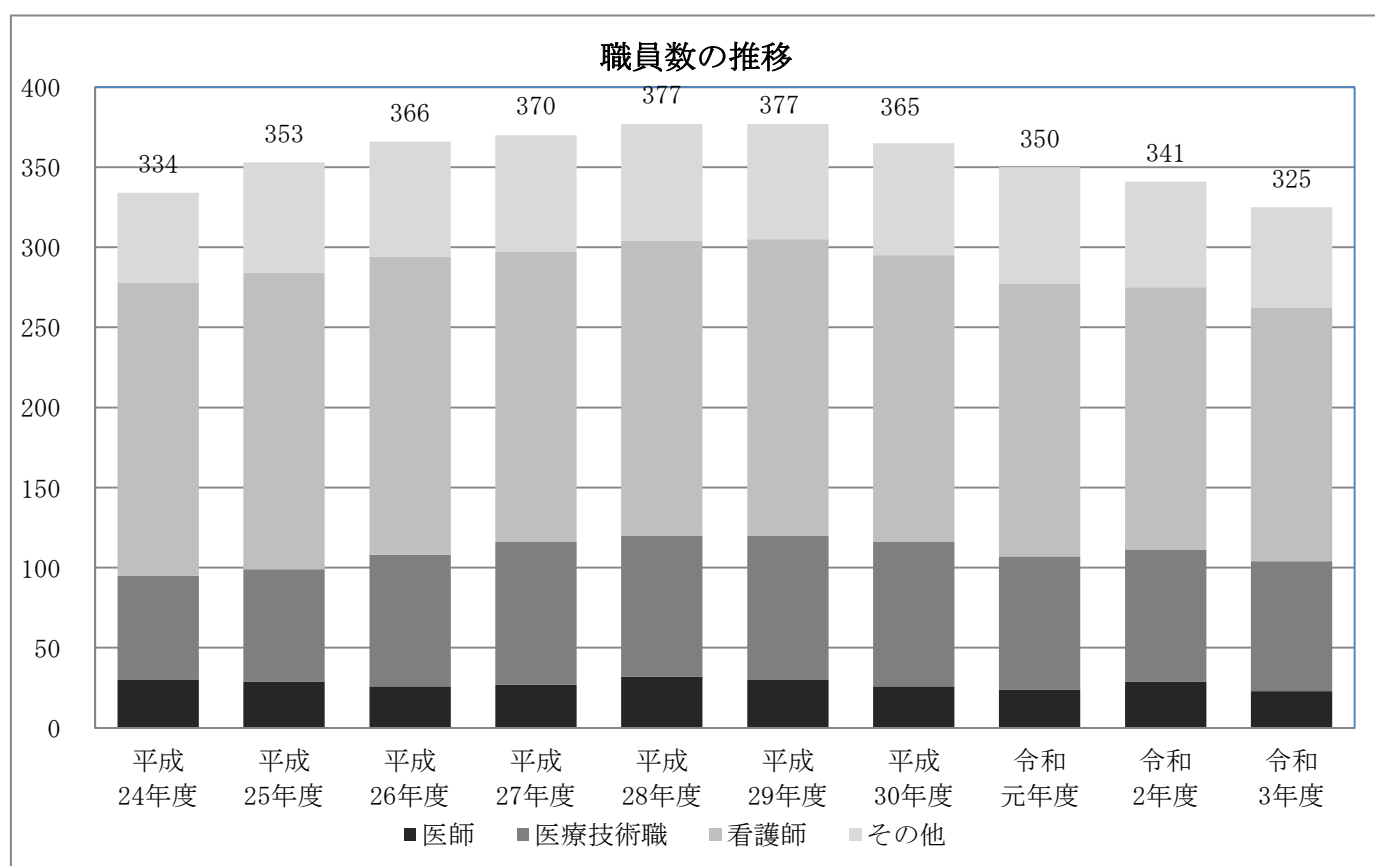
統計資料

職員数の推移	14
過去3か年の推移	
診療科別延べ患者数	15
科別時間外患者取扱数	16
市町村別時間外患者取扱数	16
市町村別時間外患者 (救急車搬入件数)	16
診療科別在院延べ患者数 及び新入院患者数	17
診療科別退院患者数 及び平均在院日数	18

■ 職員数の推移

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
医師	30	29	26	27	32	30	26	24	29	23
医療技術職	65	70	82	89	88	90	90	83	82	81
看護師	183	185	186	181	184	185	179	170	164	158
その他	56	69	72	73	73	72	70	73	66	63
総数	334	353	366	370	377	377	365	350	341	325

※ その他・・・事務職、技能職、作業職



■ 過去3カ年の推移

1. 診療科別延べ患者数（医療＋介護）

年度	令和元年度		令和2年度				令和3年度			
	外来	入院	外来		入院		外来		入院	
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	39,733	27,538	36,965	93.0%	24,632	89.4%	39,658	107.3%	26,195	106.3%
小児科	8,806	43	5,305	60.2%	68	158.1%	7,249	136.6%	96	141.2%
外科	7,755	6,129	7,699	99.3%	6,324	103.2%	8,539	110.9%	7,492	118.5%
整形外科	21,367	4,807	20,159	94.3%	8,801	183.1%	20,131	99.9%	7,757	88.1%
脳神経外科	17,570	15,568	17,205	97.9%	17,720	113.8%	17,576	102.2%	15,078	85.1%
皮膚科	6,269	9	12,322	196.6%	1,196	13288.9%	13,857	112.5%	1,434	119.9%
泌尿器科	7,391	468	7,028	95.1%	435	92.9%	7,347	104.5%	368	84.6%
産婦人科	4,580	807	4,484	97.9%	772	95.7%	5,115	114.1%	907	117.5%
眼科	11,763	1,243	9,602	81.6%	1,130	90.9%	10,238	106.6%	934	82.7%
耳鼻 いんこう科	12,744	533	9,090	71.3%	199	37.3%	7,913	87.1%	103	51.8%
篠島/ 療養介護	3,734	13,579	3,528	94.5%	3,588	26.4%	3,819	108.2%	0	0.0%
合計	141,712	70,724	133,387	94.1%	64,865	91.7%	141,442	106.0%	60,364	93.1%
平均患者数 (病院のみ)	530.7	193.2	532.2	100.3%	177.7	92.0%	566.3	106.4%	165.4	93.1%
※診療日数 (病院)	260	366	244		365		243		365	

2. 科別時間外患者取扱数

年 度	令和元年度		令和2年度				令和3年度			
	外来/入院	外来	入院	外来		入院		外来		入院
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	1,827	346	1,412	77.3	337	97.4	2,518	178.3	338	100.3
小児科	724	0	214	29.6	0	0.0	331	154.7	0	0.0
外科	251	57	251	100.0	64	112.3	239	95.2	62	96.9
整形外科	491	30	514	104.7	77	256.7	490	95.3	67	87.0
脳神経外科	467	177	393	84.2	183	103.4	398	101.3	157	85.8
皮膚科	207	0	258	124.6	4	—	176	68.2	10	250.0
泌尿器科	138	4	113	81.9	1	25.0	129	114.2	3	300.0
産婦人科	49	4	55	112.2	2	50.0	25	45.5	20	1000.0
眼科	17	0	40	235.3	0	0.0	28	70.0	0	0.0
耳鼻 いんこう科	204	11	150	73.5	3	27.3	129	86.0	0	0.0
合 計	4,375	629	3,400	77.7	671	106.7	4,463	131.3	657	97.9

3. 市町村別時間外患者取扱数

年 度	令和元年度		令和2年度				令和3年度			
	外来/入院	外来	入院	外来		入院		外来		入院
市町村	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
美浜町	2,092	242	1,535	73.4	248	102.5	1,886	122.9	277	111.7
南知多町	1,440	316	1,184	82.2	323	102.2	1,322	111.7	271	83.9
武豊町	290	23	226	77.9	40	173.9	392	173.5	40	100.0
半田市	60	7	66	110.0	17	242.9	209	316.7	14	82.4
常滑市	60	9	74	123.3	17	188.9	136	183.8	32	188.2
その他	433	32	315	72.7	26	81.3	520	165.1	23	88.5
合 計	4,375	629	3,400	77.7	671	106.7	4,465	131.3	657	97.9

4. 市町村別時間外患者（救急車搬入件数）

年 度	令和元年度		令和2年度				令和3年度			
	外来/入院	外来	入院	外来		入院		外来		入院
市町村	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
美浜町	155	116	148	95.5	136	117.2	205	138.5	149	109.6
南知多町	161	172	177	109.9	205	119.2	204	115.3	170	82.9
その他	174	52	156	89.7	58	111.5	253	162.2	79	136.2
合 計	490	340	481	98.2	399	117.4	662	137.6	398	99.7

5. 診療科別在院延べ患者数及び新入院患者数

	在院延患者数			新入院患者数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内科	26,155	22,220	23,303	1,281	1,207	1,274
小児科	21	48	66	22	20	30
外科	5,733	5,918	7,072	383	391	413
整形外科	4,660	8,505	7,481	129	305	271
脳神経外科	15,049	17,179	14,560	528	548	517
皮膚科	8	1,112	1,334	1	91	94
泌尿器科	437	414	344	28	18	26
産婦人科	715	673	793	96	94	115
眼科	894	894	740	349	236	194
耳鼻いんこう科	487	187	99	45	13	2
一般計	54,159	57,150	55,792	2,862	2,923	2,936
療養	16,901	3,570	0	31	7	0
感染	86	1,117	1,419	11	119	199
合計	71,146	61,837	57,211	2,904	3,049	3,135

6. 診療科別退院患者数及び平均在院日数

	退院患者数			平均在院日数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内科	1,241	1,182	1,286	18.7	18.6	18.2
小児科	22	20	30	1.0	2.4	2.2
外科	394	405	424	14.4	14.9	16.9
整形外科	147	295	272	33.8	28.4	27.6
脳神経外科	481	540	522	25.2	31.6	28.0
皮膚科	1	84	98	8.0	12.7	13.9
泌尿器科	28	21	23	14.6	21.2	14.0
産婦人科	92	99	111	7.6	7.0	7.0
眼科	348	236	194	2.6	3.8	3.8
耳鼻いんこう科	44	12	4	8.6	15.0	33.0
一般計	2,798	2,894	2,964	17.3	19.6	18.9
療養	92	28	0	202.5	204.0	-
感染	10	107	187	8.2	9.9	7.4
合計	2,900	3,029	3,151	23.4	20.3	18.2

診療科別医療実績

内科	20
小児科	23
外科	25
整形外科	28
脳神経外科	30
皮膚科	32
泌尿器科	34
産婦人科	35
眼科	37
耳鼻いんこう科	39
麻酔科	40

■ 内 科

1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
宮本 忠壽	名誉院長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化管学会胃腸科認定医 日本医師会認定産業医 日本消化器病学会東海支部評議員 日本消化器内視鏡学会東海支部評議員	昭和 52 年
高橋 佳嗣	副院長兼感染制御部長兼内科代表部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医	昭和 62 年
富本 茂裕	第 2 診療部長兼総合診療部長兼循環器内科部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本高血圧学会指導医	平成 2 年
丹村 敏則	健康管理支援センター長 日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本東洋医学会専門医・指導医 産業衛生学会専門医・指導医 日本プライマリケア連合学会認定医 日本人間ドック学会認定医・指導医 日本病態栄養学会 NST コーディネーター 労働衛生コンサルタント	昭和 57 年
川口 博之	一般内科部長	昭和 62 年

藤岡 一敏	消化器内科医長 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医	平成 23 年
福島 大史	循環器内科 日本内科学会認定内科医	平成 27 年
増山 勝俊	一般内科	平成 29 年
渡邊 隆太郎	一般内科	平成 31 年
井村 尚斗	一般内科 ※令和 3 年 10 月赴任	平成 31 年

2. 専門外来・主な取り組み

脳神経内科（月・火曜日）、循環器内科・血液内科（火曜日）、膠原病内科（水曜日）
呼吸器内科（木曜日）、糖尿病内科（木・金曜日）
消化器・肝臓病（第 1・3 金曜日）、ペースメーカークリニック（第 2・4 月曜日）

3. 診療実績

（単位：人、日）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	39,733	40,067	39,658
	一日平均患者数	152.8	164.2	163.2
入院	延べ患者数	27,538	28,306	26,195
	一日平均患者数	75.2	67.5	71.8
	平均在院日数	18.7	17.3	17.7

4. 令和3年度クリニカルインディケーター（DPC データより）

(1)入院症例トップ3

傷病名	症例数
コロナウイルス感染症	178
うっ血性心不全	133
大腸（結腸）のポリープ	117

(2)手術症例トップ3

傷病名	症例数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径 2cm 未満)	142
内視鏡的胆道ステント留置術	23
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径 2cm 以上)	13
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	13

■ 小児科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
安井 奈津子	小児科部長 日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法 「専門」コース（Aコース）修了 小児科全般・アレルギー疾患	平成 20 年
渡會 麻未	小児科医長 日本小児科学会専門医	平成 26 年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・慢性疾患（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、低身長、甲状腺疾患、夜尿症、てんかんなど）：月曜午後、木曜午後
- ・乳児健診：水曜午後
- ・1ヶ月健診：水曜午後
- ・予防接種：火曜午後・金曜午後

3. 診療実績

（単位：人、日）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	8,806	5,305	7,249
	一日平均患者数	33.8	21.7	29.8
入院	延べ患者数	43	68	96
	一日平均患者数	0.1	0.2	0.3
	平均在院日数	1.0	2.4	3.2

4. 令和3年度クリニカルインディケーター（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
食物アレルギー	9
低出生体重（出生時体重 1500 g 以上 2500 g 未満）	6
下垂体機能低下症	4

■ 外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
村元 雅之	副院長 兼 第1診療部長 兼 外科代表部長 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本静脈経腸栄養学会認定医・評議員 愛知臨床外科学会評議員	昭和61年
保里 恵一	第1乳腺外科部長 兼 篠島診療所長 日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 マンモグラフィ読影認定医 日本化学療法学会評議員 日本医師会産業医	昭和56年
杉戸 伸好	中央手術部長 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医 日本がん治療認定医	平成10年
川瀬 麻衣	第2乳腺外科部長 日本乳癌学会専門医 日本外科学会専門医	平成16年
傳田 悠貴	消化器外科医長 日本外科学会専門医 ※令和3年12月末退職	平成24年

内山 祐子	消化器外科医長 ※令和4年1月赴任	平成27年
-------	----------------------	-------

2. 専門外来・主な取り組み

乳腺専門外来 栄養サポート外来 褥瘡外来 血管外科
 腹腔鏡手術 内痔核手術 化学療法

3. 診療実績

(1) 基本指標

(単位：人、日)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	7,755	7,699	8,539
	一日平均患者数	29.8	31.6	35.1
入院	延べ患者数	6,129	6,324	7,492
	一日平均患者数	16.7	17.3	20.5
	平均在院日数	14.4	14.6	20.7

4. 令和3年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
乳房の悪性腫瘍	74
結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	45
鼠径ヘルニア	36

(2) 手術症例トップ3

傷病名	症例数
乳腺悪性腫瘍手術	38
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	34
腹腔鏡下胆嚢摘出術	24

5. その他

(1) 手術件数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
全手術件数	300	253	266	252	291
全身麻酔	229	191	174	188	196
腹腔鏡下胆嚢摘出術	32	43	33	26	24
大腸癌 (うち腹腔鏡下手術)	35(30)	27(18)	26(22)	25(18)	21(20)
乳癌手術	20	13	20	32	39
胃癌 (うち腹腔鏡下手術)	15(3)	11(3)	9(3)	7(3)	10(3)
膵切除術	1	6	3	5	3
肝切除術 (うち腹腔鏡下手術)	12	8(1)	1	3	0

(2) 施設認定

- 平成14年1月～ 日本外科学会外科専門医制度修練施設 (指定施設)
- 平成15年～ 第1回日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設、教育施設
- 平成23年11月～ 日本静脈経腸栄養学会 NST 委員会 NST 稼働施設
- 平成24年1月～ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 (認定施設)

■ 整形外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
脇田 郷	副院長兼医療安全管理部長 日本整形外科学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 日本リウマチ財団登録医	昭和 56 年
山田 聡	整形外科代表部長 日本整形外科学会専門医	平成 5 年
土井 孝信	リハビリテーション科医長 一般整形外科	平成 24 年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・リウマチ科（毎週火曜日）

3. 診療実績

（単位：人、日）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	21,367	20,159	20,131
	一日平均患者数	82.1	82.6	82.8
入院	延べ患者数	4,807	8,801	7,757
	一日平均患者数	13.1	24.1	21.3
	平均在院日数	33.7	28.4	28.5
手術件数		234	149	219

4. 令和3年度クリニカルインディケーター（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
股関節・大腿近位の骨折	63
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む)	35
足関節・足部の骨折・脱臼	16

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
骨折観血的手術(肩甲骨、上腕、大腿)	47
骨折観血的手術(前腕、下腿、手舟状骨)	19
人工骨頭挿入術(肩、股)	17

■ 脳神経外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
水野 志朗	院長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 脳神経血管内治療学会専門医	昭和 56 年
福島 庸行	地域医療福祉連携部長兼脳神経外科代表部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 認知症サポート医	昭和 60 年
中塚 雅雄	医療情報部長兼脳血管内治療部長 日本脳神経外科学会専門医 日本認知症学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医・指導医 脳神経血管内治療学会専門医 認知症サポート医	平成 2 年

2. 専門外来・主な取り組み

脳血管障害一般・神経外傷・認知症への対応

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	17,570	17,205	17,576
	一日平均患者数	67.5	70.5	72.3
入院	延べ患者数	15,568	17,720	15,078
	一日平均患者数	42.5	48.5	41.3
	平均在院日数	25.2	30.7	29.2
手術件数		58	43	35

4. 令和3年度クリニカルインディケーター（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
脳梗塞	134
頭蓋・頭蓋内損傷	55
脳血管障害	33

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
創傷処理	20
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	18
脳血管内手術	7

■ 皮膚科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
松原 章宏	皮膚科医長 日本皮膚科学会専門医・指導医 緩和ケア研修会修了	平成 26 年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・アトピー性皮膚炎、乾癬、掌蹠膿疱症、じんましん、天疱瘡・類天疱瘡、膠原病、皮膚良性・悪性腫瘍、皮膚潰瘍(褥瘡、熱傷も)、帯状疱疹、蜂窩織炎、多汗症(水道水によるイオントフォレーシス治療など)、円形脱毛症、男性型脱毛AGA〔自費治療：フィナステリド(ジェネリック薬)、ザガーロ®〕など
- ・光線治療に力を入れており、ナローバンドUVB、エキシマライトの2台にて、乾癬・アトピー性皮膚炎・掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの治療を行っています。

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	6,269	12,322	13,857
	一日平均患者数	24.1	50.5	57.0
入院	延べ患者数	—	1,196	1,434
	一日平均患者数	—	3.3	3.9
	平均在院日数	—	13.1	15.3

4. 令和3年度クリニカルインディケータ (DPCデータより)

(1)入院症例トップ3

傷病名	症例数
帯状疱疹	25
膿皮症	16
皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外)	14

(2)手術症例トップ3

傷病名	症例数
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	12
皮膚切開術	5
皮膚、皮下腫瘍摘出術	5

■ 泌尿器科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
本間 秀樹	泌尿器科代表部長 日本泌尿器科学会専門医	平成1年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・内視鏡手術の実施

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	7,391	7,028	7,347
	一日平均患者数	28.4	28.8	30.2
入院	延べ患者数	468	435	368
	一日平均患者数	1.2	1.2	1.0
	平均在院日数	14.6	21.2	14.2

4. 令和3年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1)入院症例トップ3

傷病名	症例数
膀胱腫瘍	5
前立腺の悪性腫瘍	5
腎臓又は尿路の感染症	4

(2)手術症例トップ3

手術名	症例数
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(その他)	5

■ 産婦人科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
菱田 克己	第1産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本医師会認定産業医	昭和48年
柴田 金光	第2産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医	昭和53年
十河 千恵	産婦人科医長 日本産婦人科学会専門医 緩和ケア講習会修了 母体保護法指定医 新生児蘇生法Aコース修了	平成24年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・産科
- ・婦人科（不妊症・更年期障害・子宮内膜症など）

3. 診療実績

（単位：人、日、件）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	4,580	4,484	5,115
	一日平均患者数	17.6	18.4	21.0
入院	延べ患者数	807	772	907
	一日平均患者数	2.2	2.1	2.5
	平均在院日数	7.6	7.0	7.9
分娩件数		55	43	51
手術件数		6	38	48

4. 令和3年度クリニカルインディケーター（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
子宮頸・体部の悪性腫瘍	12
生殖器脱出症	10
胎児及び胎児付属物の異常	7
分娩の異常	7

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
子宮脱手術（膈壁形成手術及び子宮全摘術）	7
子宮全摘術	7
子宮付属器腫瘍摘出術（両側）（開腹）	3

■ 眼科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
吉田 直子	眼科部長 日本眼科学会専門医	平成3年
塚田 明世	眼科医長 日本眼科学会専門医	平成22年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・ 白内障手術

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	11,763	9,602	10,238
	一日平均患者数	45.2	39.4	42.1
入院	延べ患者数	1,243	1,130	934
	一日平均患者数	3.3	3.1	2.6
	平均在院日数	2.5	3.8	4.8
白内障手術件数		263	445	

4. 令和3年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
白内障、水晶体の疾患	183
黄斑、後極変性	3
緑内障	3

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(その他)	180
緑内障手術	2
硝子体茎頭微鏡下離断術	2

■ 耳鼻いんこう科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
小森 克彦	耳鼻いんこう科代表部長 耳鼻いんこう科一般・頭頸部腫瘍・補聴器 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医 ※令和3年6月末退職	平成5年

2. 専門外来・主な取り組み

慢性疾患外来（アレルギー性鼻炎・滲出性中耳炎など）： 火曜日・木曜日の午後
難聴・補聴器外来： 火曜日・木曜日の午前

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来	延べ患者数	12,744	9,090	7,913
	一日平均患者数	49.0	37.3	32.6
入院	延べ患者数	533	199	103
	一日平均患者数	1.4	0.5	0.3
	平均在院日数	8.6	15.0	

4. 令和3年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
頭頸部悪性腫瘍	1
慢性副鼻腔炎	1
前庭機能障害	1
突発性難聴	1

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型	1
鼻中隔矯正術	1

■ 麻酔科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
成宮なつみ	麻酔科部長 日本麻酔科学会専門医	平成19年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・麻酔科診察
- ・救急ファーストタッチ

3. 診療実績

(単位：件)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
全身麻酔	339	312	315
脊椎麻酔	80	158	109
局部麻酔	664	606	655
合計	1,083	1,076	1,079

部署別業務実績

【診療協同部】	
・ 診療放射線室	42
・ 臨床検査室	47
・ リハビリテーション室	51
・ 臨床工学室	53
・ 栄養管理室	59
【薬剤部】	61
【看護部】	64
【医療安全管理部】	71
【感染制御部】	75
【事務部】	77
【医療情報部】	83
【保健事業部】	84
【地域医療福祉連携部】	87

■ 診療協同部 — 診療放射線室

1. 部署目標

- ・他部門との協力体制の強化
- ・X線TV装置の円滑な更新
- ・業務効率化の推進
- ・質の高い人材育成の実施
- ・健康で安全な職場環境作り

2. 活動内容と評価

(1) 「他部門との協力体制の強化」について

・令和2年度末にて超音波検査への対応可能な技師の退職が放射線技術科、臨床検査技術科両科で発生し、超音波検査の運用が困難となることが判明した。そこで超音波検査の研修の経験がある診療放射線技師にて検査対応が可能となるよう、令和2年度途中より院内研修を開始した。積極的に研修時間を設けて超音波検査の研修に取り組んだ結果、令和3年4月より業務として対応が可能となり通常どおりの運用が継続できた。しかし依然として人員不足であることから、さらに別の診療放射線技師の超音波検査の研修を開始している。CTやMRI検査などの検査対応により、画像に慣れていて臓器の解剖に明るい診療放射線技師は超音波検査に対して親和性が高いと考える。このため今後も対応可能な診療放射線技師を育成し、円滑な超音波検査の運営に協力したい。健診における腹部超音波検査の検査件数は前年比では105.8%と増加した。

(2) 「X線TV装置の円滑な更新」について

・今回のX線TV装置の更新について当初は通常どおりの院内手続きにより選定が進むと考えていたが、令和3年4月に開催された厚生連診療放射線室長会議にて「X線TV装置取得（メーカー統一）について」と協議事項が設定されることとなった。令和3、4年度に跨り5事業所計9台の取得が計画されているため、同一メーカーによるスケール交渉で取得金額の削減を図ることが目的となるものである。交渉の結果、当院の導入機器はメーカー統一による選定からは逸脱したものの、ほぼ必要な要件を満たした装置を導入することができた。選定以外の更新の作業は通常通りに進行でき、円滑に装置の更新が完了した。また設置後の調整も順調に進められたことから、装置更新により画質向上とともに被ばく低減も実現できた。

(3) 「業務効率化の推進」について

- ・造影CT検査の造影剤の注入方法について、ガイドラインに沿ったものでなく経験則による設定が残っていた。このためガイドラインに沿った造影剤の注入方法を基準

として設定を見直した。見直しを行う事によって、業務の平準化と効率化が達成できた。さらに造影効果など画像診断における改善も実現できている。

職員における定期健康診断時の胸部 X 線撮影について、従来は健康管理支援センターにて全職員の撮影を対応していたが、令和 3 年度より男性職員については 1 階の放射線撮影室にて対応するように変更した。これまでは女性技師に撮影の負担が集中していたが、分散することができ負担軽減と効率的な運用を実現する事ができた。また被検者からもスムーズに撮影できていると職員からも好評である。

血管撮影装置の更新を行い、装置の性能を評価するとともに業務の見直しを行った。それまでは撮影した画像などは、検査終了後に光学ディスクに保存していた。しかし装置内に画像保存を行う事で対応可能となり、作業を廃止することができた。作業項目を低減でき、加えて個人情報の管理業務も削減できるようになった。

(4) 「質の高い人材育成の実施」について

・新型コロナウイルス感染症が蔓延して以来、各種研究会やセミナーなどはそれ以前のように開催されなくなってしまった。しかしオンライン方式での研究会やセミナーなどが開催されるようになり、異なる形式で参加が可能となってきている。また従来では参加が難しかった県外など遠方で開催される研究会なども、オンライン方式での開催により参加することが可能となり参加できた回数は増加している。今後も継続して参加し、さらに得た情報や知識をフィードバックできるように放射線室内での勉強会を充実させていきたいと考える。

(5) 「健康で安全な職場環境作り」について

・令和 3 年 8 月に診療放射線室内にて新型コロナウイルス感染症に罹患した職員が発生した。以前からも感染対策や職場内の整理整頓や清潔について取り組みを行っていたが、それでも職員の感染が発生したということで見直しを行った。その結果、感染対策として機器も含めた接触部の清拭を確実に行うこと、アルコール消毒の再徹底などを周知して対応を強化した。またスタッフルームや CT 室にアルコール消毒を行う事が出来るように、機材の配置数を増やして感染対策を強化した。職場以内でのマスク無し会話はしないように徹底することも継続している。

令和 3 年度年間の超勤時間で、最大の超勤時間だった職員と次点の職員とを比較した場合に 0.24 時間しか差が無く、一人に超勤業務が集中することなく残務業務に対応できていた。有給休暇の取得状況は診療放射線技師 9 名の平均取得日数は 12.4 日であり、有給休暇の取得日数とともに振休の取得についても希望に近い日付にて取得でき働きやすい職場につながっていると考える。

3. 業務実績

(1) 検査件数

令和3年度 診療放射線室 検査件数

全検査数

健診検査件数（再掲）

項目	令和3年度合計	令和2年度合計	前年度比較	項目	令和3年度合計	令和2年度合計	前年度比較
一般撮影	21,541	21,692	99.3%	胸部	3,084	2,717	102.3%
マンモ	1,634	1,561	104.7%	マンモ	880	860	102.3%
TV検査	3,269	3,032	107.8%	胃透視	1,265	1,131	111.8%
血管検査	144	93	154.8%	胃内視鏡	996	905	110.1%
CT検査	8,717	7,848	111.1%	CT検査	248	244	101.6%
MRI検査	5,032	4,920	102.3%	MRI検査	419	346	121.1%
骨塩定量	644	574	112.2%	骨塩定量	160	163	98.2%
画像処理	1,695	1,563	108.4%	合計	6,056	5,461	110.9%
術中透視	3	1	300.0%				
合計	42,679	41,284	103.4%				

健診合計件数には胃内視鏡件数は含まず

4. その他

(1) 人員体制について（令和4年3月31日現在）

診療放射線技師	9名（女性3名、男性6名）
放射線（1Bブロック）看護師	5名
SPD（午前）	1名
受付事務員（1Bブロック）	2名（午後1名）

(2) 画像診断関連機器一覧 令和3年度

撮影室	室番号	装置名(用途)	機種名	メーカー	取得年月日
一般撮影室 6	6	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE1:立位)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE2:臥位)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE7:半切)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE10:四つ切)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		CR読取装置	FCR PRIMA(カセットリーダー)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オリオンラボセフメディカル	2018/10/15
一般撮影室 7	7	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE3立位)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE4:臥位)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE8:半切)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE11:四つ切)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オリオンラボセフメディカル	2018/10/15
		マンモ・ 骨塩定量 撮影室8	8	撮影装置	MAMMOMAT1000
画像処理装置	Console Advance			富士フィルムメディカル	2018/10/15
8	CR読取装置		FCR PROPECT CS(カセットリーダー)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
健康管理支 援センター (胸部撮影)		撮影装置	RADIOTEX CH-200	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE5)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オリオンラボセフメディカル	2018/9/25
病棟用		回診型撮影装置	MobileDalt Evolution MX8VersionK	島津	2021/3/17
		FPD撮影装置	AeroDR 1717 FINE	コニカミノルタ	2021/3/17
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル2	コニカミノルタ	2021/3/17
手術室		回診型撮影装置	MobileDalt Evolution MX8VersionK	島津	2021/3/17
		FPD撮影装置	AeroDR 1717 FINE	コニカミノルタ	2021/3/17
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル2	コニカミノルタ	2021/3/17
		OPE用透視装置	SIREMOBIL Compact L	シーメンス	2007/8/10
		OPE用透視装置	OPESCOPE ACTENO	島津	2022/3/1
TV室2	2	撮影装置	ZEXIRA 1314 (F.P.D.)	キャノン	2021/10/1
		撮影制御装置	DREX-ZX80	キャノン	2021/10/1

TV室9	9	撮影装置	ZEXIRA FPD Version (F.P.D.)	キャノン	2009/7/30
		撮影制御装置	HDR-1000A	キャノン	2009/7/30
CT室	5	撮影装置	Aquillion Prime SP TSX-303B	キャノン	2019/5/7
		造影剤自動注入器	Dual Shot GX7	根本杏林堂	2019/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION2 TypeH	アミン	2019/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION2Classic	アミン	2012/7/21
		テラステーション	terastation Pro	バッファロー	2009/7/7
		Xe-CT測定装置	コールドキセノンガス吸入装置AZ-727N	安西	2021/8/11
		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2011/4/10 (新古車)
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE6)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE12:四つ切)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		MRI室	4	撮影装置	Ingenia1.5T
ワークステーション	バーチャルプレイス風神RM-01123791			A Z E	2015/9/25
生体情報モニタ	Invivo Essentil			コニカミノルタ	2015/9/25
造影剤自動注入器	ソニックショット7			根本杏林堂	2015/9/25
血管撮影室	3	撮影装置	AXIOM Artis zee BA	シーメンス	2022/1/18
		ポリグラフ	RMC-4000M	日本光電	2008/8/4
		造影剤自動注入器	プレスプロ150	根本杏林堂	2009/7/30
		ワークステーション	syngoX-Workplace	シーメンス	2022/1/18
一般撮影 操作室		film読み取り装置	AOC Scan1.5	アレイ	2017/3/21
		ドライイメージャー	DRY PIX EDGE	富士フィルムメディカル	2018/9/18
		画像検像装置	iRad-QA	インフォコム	2017/3/21
感染症病棟		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2010/6/1
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE9:半切)	富士フィルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フィルムメディカル	2018/10/15
篠島診療所		診断用X線装置	エクシープロMパック	島津	2011/11/1
		画像処理装置	画像診断WS Unitea α	コニカミノルタ	2021/3/10
		FPD撮影装置	AeroDR 1317 Premium	コニカミノルタ	2021/3/10
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル2	コニカミノルタ	2021/3/10
		診断用モニター	EV2456Bk	EIZO	2021/3/10

■ 診療協同部 ー 臨床検査室

1. 部署目

- ・安心・安全な医療提供体制の追求
- ・患者満足度と医療の質の追求
- ・業務の効率化と働き方改革の推進
- ・活気ある病院づくりと職員のやりがい確保
- ・危機管理体制の整備

2. 活動内容と評価

(1) 安心・安全な医療提供体制の追求について

- ・新型コロナウイルスの急激な検査増に対しても迅速な結果が提供できるよう、試薬の確保や早朝からの検査対応、大型機器を使った検査など十分に発揮できた。機器トラブルによる結果報告遅延を防ぐため、日々機器メンテナンスを行ってはいるが、分析装置の老朽化も進んでいる。来年度の大型機器導入を見据え、継続的に安定した検査結果の提供に心がけていきたい。

(2) 患者満足度と医療の質の追求について

- ・検査に対するインシデントや要求事項に対し、その対策の全体共有ができるだけ速やかに進むよう、医療安全部門を含めカンファレンスを随時開催とし、事例への対応を迅速に進める体制を整えた。

(3) 業務の効率化と働き方改革の推進について

- ・今年度は実現出来なかったが、来年度の大型機器導入を機に人員配置を見直すとともに複数部署を担当できる教育を充実していきたい。時間外の短縮や有休休暇促進を試みたが、産休育休者等の理由により満足した結果は得られなかった。来年度も継続して計画的に進めていきたい。

(4) 活気ある病院づくりと職員のやりがい確保について

- ・今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々な行事が開催されなかった。一つの手段でもある他部署との交流などが出来ず、活気ある病院づくりが出来たとは言えなかった。だが、職員個人の働くことに関するモチベーションは高く、今後も維持できるようにしていきたい。

(5) 危機管理体制の整備について

- ・厚生連において「臨床検査室 危機発生時支援システム」が存在している。机上訓練は終了してはいるが、全体への周知が不足している。来年度も継続して、内容の整備や職員全体への周知を完成させたい。

3. 業務実績

稼働件数		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
一般検査	尿	37,712	97.3	35,087	93.0	35,005	99.8
	便	4,625	104.5	4,404	95.2	4,826	109.6
	体液	535	124.7	408	76.3	503	123.3
血液検査	血液	106,244	95.7	106,442	100.2	111,978	105.2
輸血検査	輸血	2,505	102.1	2,768	110.5	2,628	94.9
臨床化学	化学1	796,342	98.4	795,189	99.9	822,000	103.4
	化学2	33,799	100.9	33,785	100.0	37,338	110.5
	血液ガス	704	119.7	985	139.9	1,061	107.7
	負荷試験	9	100.0	9	100.0	12	133.3
微生物検査	一般細菌	10,416	105.5	8,119	77.9	9,988	123.0
	微生物核酸検査	0	—	1,358	—	2,951	217.3
	その他	700	94.2	817	116.7	721	88.2
免疫検査	免疫	50,465	100.0	50,622	100.3	55,180	109.0
病理	病理組織	1,455	109.6	1,561	107.3	1,646	105.4
	細胞診	2,799	99.5	2,673	95.5	1,825	68.3
生理検査	肺機能	4,236	103.5	3,129	73.9	3,539	113.1
	心電図	9,232	107.5	8,920	96.6	9,759	109.4
	超音波	4,902	100.3	4,885	99.7	5,022	102.8
	脳波	166	130.7	145	87.3	138	95.2
	その他	3,962	105.7	3,450	87.1	3,903	113.1
その他	病理解剖	2	—	0	—	2	—
	採血	28,126	96.9	27,761	98.7	27,842	100.3
	輸血製剤管理	864	85.5	956	110.6	943	98.6
	その他(DM指導等)	75	28.3	73	97.3	125	171.2
		1,099,875	98.4	1,093,546	99.4	1,138,935	104.2

稼働点数		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
一般検査	尿	1,360,121	98.2	1,197,055	88.0	1,115,417	93.2
	便	173,825	104.8	165,179	95.0	178,618	108.1
	体液	9,015	148.7	6,027	66.9	7,916	131.3
血液検査	血液	2,696,696	96.1	2,797,264	103.7	2,984,456	106.7
輸血検査	輸血	137,055	97.3	145,274	106.0	135,480	93.3
臨床化学	化学1	10,079,189	97.5	10,029,170	99.5	10,678,520	106.5
	化学2	4,512,235	100.1	4,405,187	97.6	4,818,441	109.4
	血液ガス	98,560	119.7	136,915	138.9	147,479	107.7
	負荷試験	1,800	100.0	1,800	100.0	2,400	133.3
微生物検査	一般細菌	1,189,944	107.7	881,267	74.1	1,122,913	127.4
	微生物核酸検査	0	—	1,832,360	—	2,962,290	161.7
	その他	0	—	0	—	0	—
免疫検査	免疫	2,762,659	97.7	3,889,372	140.8	6,386,840	164.2
病理	病理組織	1,498,270	108.8	1,627,800	108.6	1,663,010	102.2
	細胞診	453,310	100.6	413,574	91.2	315,505	76.3
生理検査	肺機能	403,980	103.9	299,220	74.1	338,300	113.1
	心電図	1,414,220	99.8	1,420,560	100.4	1,532,530	107.9
	超音波	2,395,540	101.9	2,405,350	100.4	2,480,620	103.1
	脳波	139,438	120.0	123,290	88.4	126,060	102.2
	その他	687,400	114.7	563,260	81.9	655,660	116.4
その他	病理解剖	50,000	—	0	—	50,000	—
	採血	782,610	89.9	971,635	124.2	974,470	100.3
	輸血製剤管理	0	—	0	—	0	—
	その他(CGM)	28,700	20.7	21,700	75.6	18,900	87.1
稼働点数合計		30,874,567	99.3	33,333,259	108.0	38,695,825	116.1

判断料 件数		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	9,843	98.4	9,228	93.8	8,801	95.4
	血液学的検査	28,105	97.4	28,095	100.0	28,512	101.5
	生化学的検査（Ⅰ）	27,910	97.4	27,978	100.2	28,471	101.8
	生化学的検査（Ⅱ）	9,691	95.9	9,664	99.7	10,624	109.9
	免疫学的検査	14,371	94.9	14,493	100.8	19,250	132.8
	微生物学的検査	2,247	96.9	3,339	148.6	5,174	155.0
	病理学的検査	915	91.8	918	100.3	999	108.8
	呼吸機能検査	356	116.7	407	114.3	464	114.0
	脳波検査	98	112.6	58	59.2	74	127.6
神経・筋検査	30	88.2	30	100.0	35	116.7	
検査判断総件数		93,566	96.9	94,210	100.7	102,404	108.7

その他加算 件数		令和年度		令和2年度		令和3年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
病理診断料		1,199	103.1	1,325	110.5	1,397	105.4
細胞診断料		561	112.4	604	107.7	556	92.1
検体検査管理加算Ⅰ		35,321	95.9	32,918	93.2	34,942	106.1
検体検査管理加算Ⅱ		317	96.6	348	109.8	402	115.5
パルスドプラ法加算		171	169.3	194	113.5	216	111.3
乳幼児加算		85	94.4	82	96.5	181	220.7
時間外緊急院内検査加算		1,465	85.0	913	62.3	1,010	110.6
生化学入院時初回加算		182	119.7	390	214.3	550	141.0
外来迅速加算		34,033	98.7	33,534	98.5	34,277	102.2
輸血管理料Ⅰ		200	89.7	199	99.5	212	106.5
輸血適正使用加算Ⅰ		200	89.7	199	99.5	212	106.5
合計 件数		73,734	97.3	70,706	95.9	73,955	104.6

判断料 点数		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	334,662	98.4	313,752	93.8	299,234	95.4
	血液学的検査	3,513,125	97.4	3,511,875	100.0	3,564,000	101.5
	生化学的検査（Ⅰ）	4,019,040	97.4	4,028,832	100.2	4,099,824	101.8
	生化学的検査（Ⅱ）	1,395,504	95.9	1,391,616	99.7	1,529,856	109.9
	免疫学的検査	2,069,424	94.9	2,086,992	100.8	2,772,000	132.8
	微生物学的検査	337,050	96.9	500,850	148.6	776,100	155.0
	病理学的検査	137,250	91.8	137,700	100.3	149,850	108.8
	呼吸機能検査	49,840	116.7	56,980	114.3	64,960	114.0
	脳波検査	17,640	112.6	10,440	59.2	13,320	127.6
	神経・筋検査	5,400	88.2	5,400	100.0	6,300	116.7
検査判断総点数		11,878,935	96.8	12,044,437	101.4	13,275,444	110.2

その他加算 点数	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
病理診断料	539,550	103.1	596,250	110.5	628,650	105.4
細胞診診断料	112,200	112.4	120,800	107.7	111,200	92.1
検体検査管理加算Ⅰ	1,412,840	95.9	1,316,720	93.2	1,397,680	106.1
検体検査管理加算Ⅱ	31,700	96.6	34,800	109.8	40,200	115.5
パルスドプラ法加算	34,200	169.3	38,800	113.5	43,200	111.3
乳幼児加算	2,125	94.4	2,050	96.5	4,525	220.7
時間外緊急院内検査加算	293,000	85.0	182,600	62.3	202,000	110.6
生化学入院時初回加算	3,640	119.7	7,800	214.3	11,000	141.0
外来迅速加算	1,359,340	90.8	1,475,270	108.5	1,500,240	101.7
輸血管理料Ⅰ	44,000	89.7	43,780	99.5	46,640	106.5
輸血適正使用加算	24,000	89.7	23,880	99.5	25,440	106.5
合計 点数	3,856,595	94.7	3,842,750	99.6	4,010,775	104.4

検査委託		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
委託件数	保険収載件数	14,018	93.0	15,760	112.4	18,857	119.7
	未保険収載件数	480	95.4	725	151.0	1,131	156.0
	管理料件数	236	—	189	—	172	—
総件数		14,734	94.6	16,674	113.2	20,160	120.9
委託支払額	保険項目支払小計	14,565,148	96.0	15,920,719	109.3	21,341,857	134.1
	未保険項目支払計	1,557,115	131.4	1,930,125	124.0	3,856,416	199.8
	管理料支払計	232,958	—	180,173	—	155,528	—
総支払い額		16,355,221	100.0	18,031,017	110.2	25,353,801	140.6
委託検査収入	総保険点数請求額	30,202,290	93.2	33,135,380	109.7	41,683,310	125.8
	利益差	13,847,069	86.2	15,104,363	109.1	16,329,509	108.1
消費額	薬品費	57,095,341	91.7	66,305,369	116.1	72,908,086	110.0
	医療材料費	3,568,383	61.8	5,560,218	155.8	8,254,098	148.4
薬品費材料費合計		60,663,724	89.2	71,865,587	118.5	81,162,184	112.9

令和3年度まとめ

令和3年度は、新型コロナウイルス第4波、第5波そして第6波と感染者数が激増した年度であった。新型コロナ感染症検査への対応のため、薬品費、医療材料費あわせて1,000万円以上の増額となったが、診療報酬ではコロナ遺伝子検査（微生物核酸検査）で1,100万円、抗原検査（免疫検査）等では2,500万円弱の増収に繋がった。

他検査の稼働件数、稼働点数、検査判断料件数・点数、加算件数・点数も、新型コロナウイルス発生以前より増加が見られた。

検査委託については件数や支払額が増加しているが、総保険点数請求額も増加し利益差も増収が見られた。

■ 診療協同部 — リハビリテーション室

1. 部署目標

- ・緊急時にも持続対応できる仕事の作業・手順・実務の流れの構築
- ・安心・安全なリハビリテーションサービスを継続的に提供できるチームづくりを行う
- ・行動変容の重要性・可能性について認識する

2. 活動内容と評価

令和3年度の知多厚生病院の事業計画における基本方針の中で、「時代の変化に合わせた自らの改革を積極的に実践するとともに、経営の効率化を中心とした持続可能な病院経営を目指す必要がある」と掲げられており、リハビリテーション室においても病院方針に則り上記部署目標を立てて活動を行った。

(1) 緊急時も持続対応できる仕事の作業・手順・実務の流れの構築について

室内チームを3チーム制で継続運用し、急な職員の欠勤対応が行える様に、現状の運用の手順を改善し属人的な作業を見直しスタッフが対応できるようにした。また欠勤となった職員の担当患者に対応できるように、チーム内で新患の情報共有やカンファレンスの実施、担当者間で定期的な患者評価や訓練などを実施した。

(2) 安心・安全なリハビリテーションサービスを継続的に提供できるチームづくりを行うについて

インシデント事例から学んだ対応の徹底について、担当者のみではなく室内でも共有し再発予防に徹した。また欠勤となった職員の担当患者に対応できるように、チーム内で新患の情報共有やカンファレンスの実施、担当者間で定期的な患者評価や訓練などを実施した。

(3) 行動変容の重要性・可能性について認識するについて

リハビリテーション室内を整理整頓する事で、美化や物品管理、感染予防のための環境整備ができるように備品配置変更や掃除方法の変更を行った。環境整備意識は高まったが、貸し出し物品簿の記入漏れがあるため、継続して取り組む。

3. 業務実績

別紙参照

3. リハビリテーション室 業務実績

実施単位数			単位	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
	外来	9,541		4,456	4,231	854
	前年	8,890		4,308	3,566	1,016
	対前年比	107%	103%	119%	84%	
	入院	75,010	単位	42,572	26,860	5,578
	前年	78,948		42,624	28,939	7,385
	対前年比	95%		100%	93%	76%
	摂食機能療法	192	回	0.00	0.00	37
	前年	37		0.00	0.00	1,180
	対前年比	519%				3%
計	84,588	単位	47,028	31,091	6,469	
前年	87,875		46,932	32,505	9,581	
対前年比	96%		100%	96%	68%	

患者数 と 実施単位数			新患者数	延べ患者数	総単位数	実施単位/患者
	外来	466	7,265	9,541	1.31	
	前年	446	6,884	8,890	1.29	
	対前年比	104%	106%	107%	1.02	
	入院	1,472	43,380	74,653	1.72	
	前年	1,532	46,815	78,948	1.69	
	対前年比	96%	93%	95%	1.02	
	計	1,938	50,645	84,194	1.66	
前年	1,978	53,699	87,838	1.64		
対前年比	98%	94%	96%	1.02		

リハ料別	計	外来		理学療法	作業療法	言語聴覚療法
		入院				
脳血管	27,992	5,415	1,025	3,537	853	
		22,577	10,553	8,914	3,110	
廃用	19,046	0	0	0	0	
		19,046	11,514	6,628	904	
運動器	23,920	7,920	3,379	4,541		
		16,000	12,473	3,527		
呼吸器	9,620	18	18	0	0	
		9,602	4,960	3,274	1,368	
がんリハ	3,187	3,187	2,537	473	177	
摂食機能	128	128			128	
合計	83,893		46,459	30,894	6,540	

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法
訪問リハ件数		980	453	47
前年実数		1,165	468	51

■ 診療協同部－臨床工学室

1. 部署目標

- 1) 医療機器の保守点検管理を計画的に実施し安全に医療機器が使用できる環境を整える。
- 2) 医療機器の安全使用に係る勉強会を適宜開催し、取り扱い方法・トラブル対応方法等の周知を行い、看護師の医療機器使用時の不安軽減や安全使用の向上を図る。
- 3) 医療機器の稼働状況の把握及び医療材料の管理・運用方法を検討し、医療機器の適正台数・医療材料の適正在庫数・業務の効率化・コスト削減を図る。
- 4) 医師・看護師・他職種との連携を図り安全で円滑な診療支援を行う為、部署内での診療支援に係る勉強会や業務見直しを適宜行う。
- 5) 連休・有給休暇の取得しやすい環境作り、及び業務の専門性向上への取り組み。

2. 活動内容と評価

- 1) 医療機器の保守点検管理を計画的に実施し安全に医療機器が使用できる環境を整える。
 - ・臨床工学技士による医療機器点検実施件数（始業点検・定期点検含む）は、3,779件（前年対比：105%）であった。医療機器点検実施件数（始業点検・定期点検含む）の内、医療機器の部品交換や精度確認等の詳細な点検を行う定期点検については、麻酔器2台、除細動器7台、閉鎖式保育器2台、人工呼吸器（ニューポート e360）4台、人工呼吸器（ハミルトンC1）3台、電気メス13台、TCI シリンジポンプ2台、小型シリンジポンプ1台、シリンジポンプ351 25台、輸液ポンプ281A 45台、輸液ポンプ161S（安城更生病院より移設）6台、低圧持続吸引器8台、経管経腸栄養ポンプ15台、MRI 対応パルスオキシメータ2台であった。
 - ・メーカー依頼定期点検実施医療機器は、閉鎖式保育器1台、人工呼吸器3台、搬送用人工呼吸器2台、麻酔器1台、血液浄化装置1台、臨床用ポリグラフ1台、人工呼吸器用定期点検テスター1台であった。
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響で麻酔器の定期点検部品の供給に遅延が発生し一部年度を越えての定期点検実施となった。定期点検について、2ヵ月程度の遅れが生じた医療機器もあったが、予定していた医療機器全ての定期点検を完了することができた。
- 2) 医療機器の安全使用に係る勉強会を適宜開催し、取り扱い方法・トラブル対応方法等の周知を行い、看護師の医療機器使用時の不安軽減や安全使用の向上を図る。
 - ・別添資料1（院内勉強会実施一覧 令和03年度）参照

- 3) 医療機器の稼働状況の把握及び医療材料の管理・運用方法を検討し、医療機器の適正台数・医療材料の適正在庫数・業務の効率化・コスト削減を図る。
- ・感染症病床のベッドサイドモニタを8台から10台へ増設した。このことに伴い、セントラルモニタも8名から10名受信できるよう対応した。
 - ・ディスプレイSP02プローブの購入金額が、臨床工学室の年間備品購入金額の52.9%を占めているため、経費削減として2021年8月に看護課長会議にてリユーザブルSP02プローブを用いた経費削減案について報告した。その後、リユーザブルSP02プローブを3階・4階病棟に配布し運用変更を行った。その結果、2021年度のディスプレイSP02購入箱数は131箱（前年対比：91.0%）と削減を行うことができた。
 - ・2021年6月 人工呼吸器（エングストローム・ケアステーション）のメーカーによる保守点検サービスが終了したため、廃棄処分とした。
 - ・2021年9月 新規導入機器として麻酔器（ケアステーション650S）：1台購入した。
 - ・2021年10月 離床センサーの稼働状況を鑑みて、離床センサー（サイドコール：2台、タッチコール2台）を追加（リース）した。
 - ・2021年11月 新型コロナウイルス感染症対策（入院医療機関設備整備事業）により人工呼吸器（ハミルトンC1）：1台の導入を行った。
 - ・2021年11月 輸液ポンプ、シリンジポンプの使用頻度が一時的に増加することがあったため、テルモ社製輸液ポンプ、シリンジポンプのレンタル契約を協和医科器械と締結した。このことにより、輸液ポンプ、シリンジポンプの不足時にレンタル対応を行うことが可能となったため、機器の追加購入が不要となり、経費削減に繋がった。
- 4) 医師・看護師・他職種との連携を図り安全で円滑な診療支援を行う為、部署内での診療支援に係る勉強会や業務見直しを適宜行う。
- ・循環器関連業務では、心臓カテーテル検査21件（前年対比：1050.0%）、ペースメーカー植込み・交換15件（前年対比：150.0%）、体外式ペースメーカー9件（前年対比：900.0%）、ペースメーカーチェック（遠隔モニタリング含む）634件（前年対比：129.4%）を実施した。
 - ・血液浄化療法関連業務では、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）0件、エンドトキシン吸着（PMX-DHP）2回（前年対比：50.0%）、維持透析患者への血液透析対応は0件、胸水腹水濾過濃縮再静注療法（CART）31件（前年対比：172.2%）であった。
 - ・臨床検査室とのタスクシェアとして、採血室業務を2021年11月より開始した。実施者は臨床工学技士（准看護師資格保有者）1名で2021年11月から2022年3月末の間で15回の採血室業務を実施した。

- 5) 連休・有給休暇の取得しやすい環境作り、及び業務の専門性向上への取り組み。
- ・業務の効率化を図るため、医療機器点検マニュアル（ネーザルハイフロー、除細動器、個人用血液透析装置、血液浄化装置：TR-2020、シリンジポンプ、閉鎖式保育器）の作成、改正を行った。

3. 業務実績

1) 臨床工学室 年度別業務件数 (平成29年度～令和03年度)

臨床工学室 年度別業務件数報告書

心臓カテーテル関連業務

業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
CAG	8	7	7	2	21
PCI	7	1	0	0	4
EPS	0	0	0	0	0

ペースメーカー関連業務

業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
ペースメーカーチェック	166	282	388	490	634
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
ペースメーカー新規	4	3	5	4	7
ペースメーカー交換	4	1	1	6	8
ペースメーカー体外式	1	3	1	1	9
ペースメーカー生活指導	8	2	7	10	13

血液浄化療法関連業務

業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
GCAP	6	0	2	0	15
LCAP	0	0			
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
エンドトキシン吸着	1	0	0	4	2
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
CART(胸水・腹水濾過濃縮)	19	7	19	18	31
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
CHDF(日数)	0	8	0	2	0
HD・HF・HDF	0	0	0	0	0
PE(血漿交換)	0	0	0	0	0

手術協助関連業務

業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
経皮的ラジオ波焼灼療法	4	2	5	1	0
手術立ち会い	147	12	5	6	10
セルセーバー(自己血回収装置)	0	0	0	0	0

人工呼吸器関連業務

業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
人工呼吸器使用中点検	1211	1551	1610	1280	654
人工呼吸器回路交換	53	61	64	77	53
人工鼻フィルター交換	13	7	6	14	6
バクテリアフィルター交換	580	695	669	219	103
カテーテルマウント交換	203	264	291	227	118
NIPPV対応	6	1	0	0	6
CPAP説明	21	22	9	11	20
新規導入(NPPV含む)	64	54	30	49	45

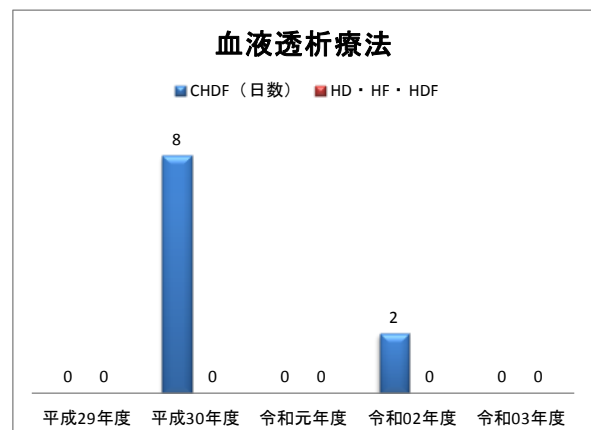
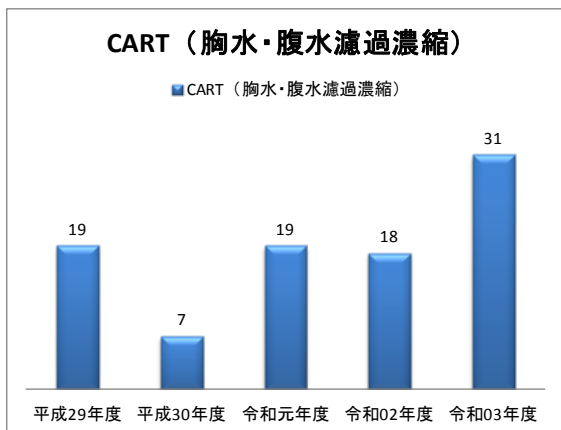
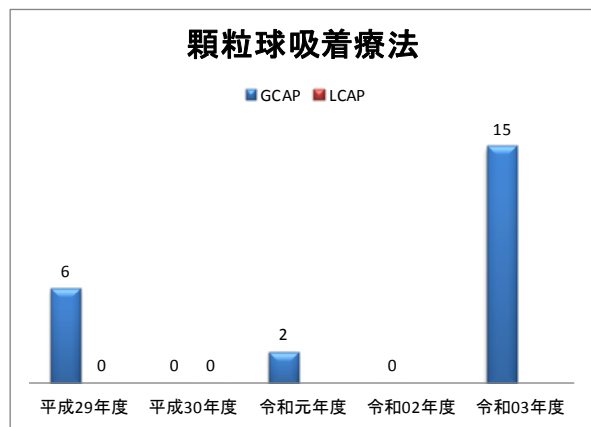
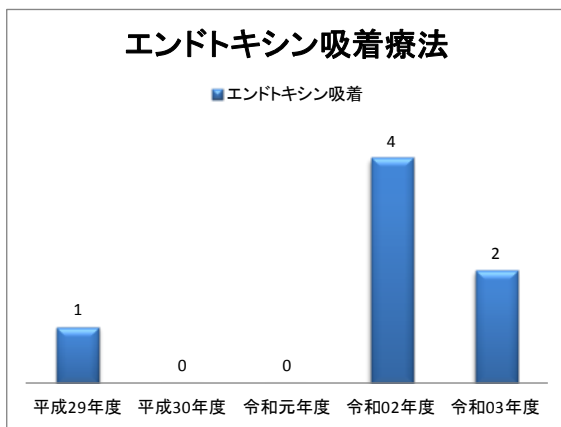
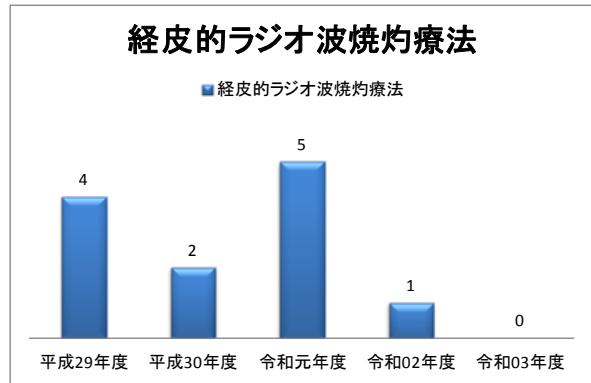
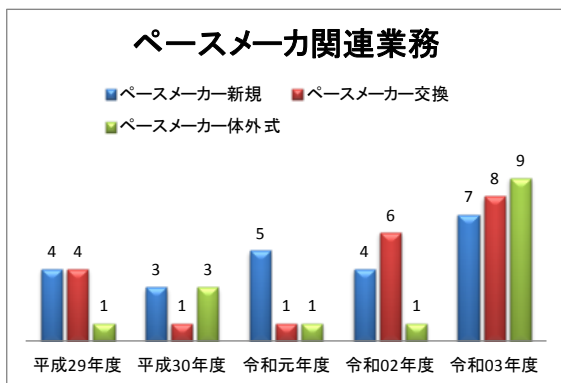
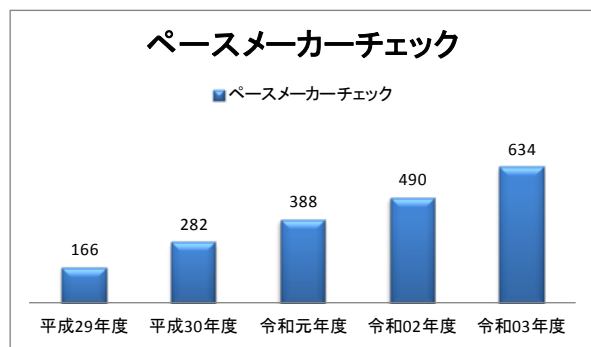
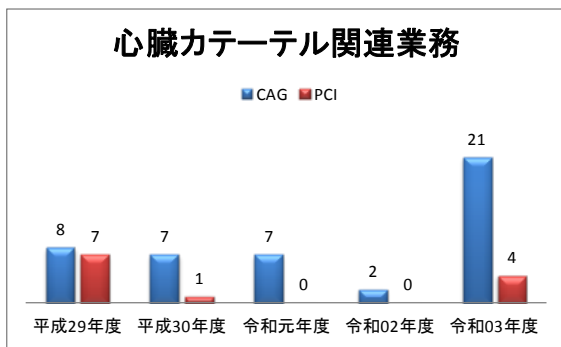
MEセンター関連業務

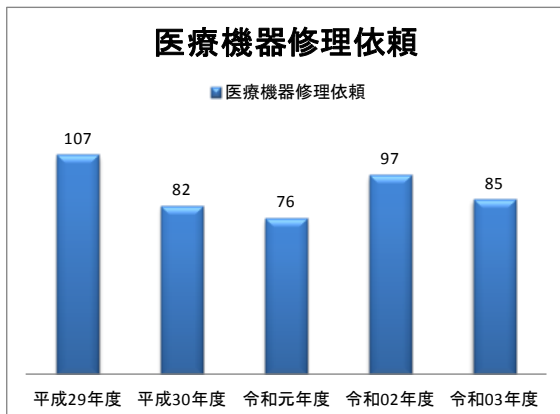
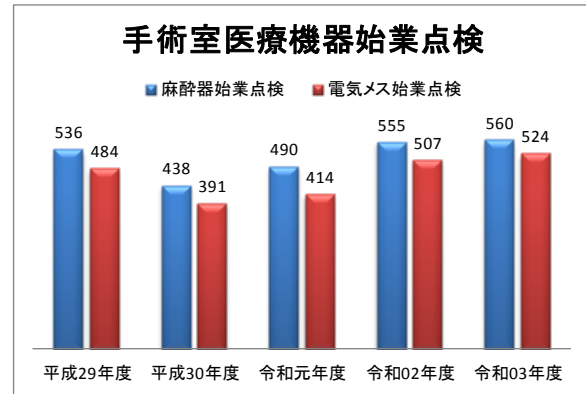
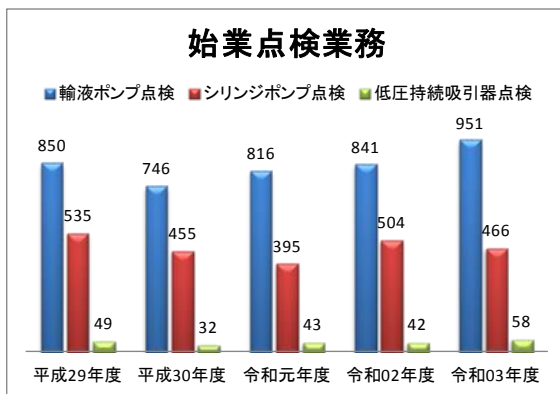
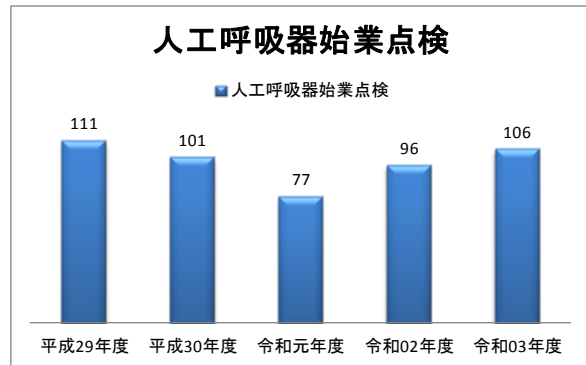
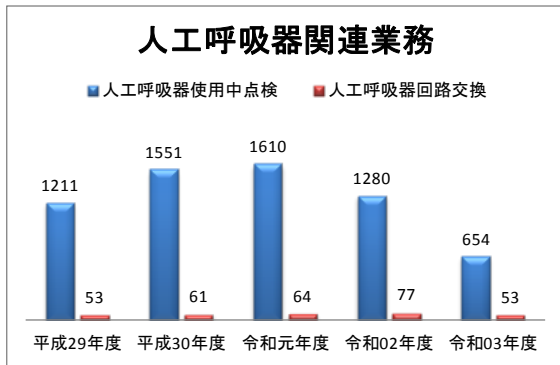
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
麻酔器始業点検	536	438	490	555	560
電気メス始業点検	484	391	414	507	524
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
人工呼吸器始業点検	111	101	77	96	106
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
IABP点検	12	11	12	12	12
除細動器点検	82	83	83	85	89
閉鎖式保育器点検	34	30	30	40	35
AED点検	134	122	140	130	129
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
輸液ポンプ点検	850	746	816	841	951
シリンジポンプ点検	535	455	395	504	466
低圧持続吸引器点検	49	32	43	42	58
業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
医療機器修理依頼	107	82	76	97	85

緊急対応業務

業務分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和02年度	令和03年度
夜間・休日 対応	10	17	2	15	14

2) 臨床工学室 年度別業務件数グラフ (平成 29 年度～令和 03 年度)





■ 診療協同部－栄養管理室

1. 部署目標

- ・安全な食事の提供
- ・栄養指導件数の増加
- ・超過勤務の削減
- ・経費削減

2. 活動内容と評価

(1) 安全な食事の提供

- ・HACCP に準じた衛生管理マニュアルを作成、徹底した衛生管理を行い安全な食事の提供に努めた。
- ・誤配膳予防の為、盛付け・組込み・配膳時の確認方法を統一したことにより前年度より発生件数が減少した。

(2) 栄養指導件数の増加

- ・医師への働きかけなど年間を通して栄養指導件数の増加に努めたが増加に転じることはできなかった。引き続き増加に努めていきたい。

(3) 超過勤務の減少

- ・業務内容を検討し厨房職員の超過勤務を前年度より減少させることができ、厨房スタッフの身体的負担が軽減された。

(4) フードロス削減の取り組み

- ・社会的に問題となっているフードロス削減の取り組みを行った。食数管理の徹底、予備食の見直しを行い廃棄量の減少に努めた。

(5) 健康増進のための啓蒙活動

- ・コロナウイルス感染症のため開催が中止となっている調理実習に変わり、健康増進の一環として健康をテーマとしたポスターを作成、配布した。

3. 業務実績

(1) 給食数

患者食

食 種	令和3年度		令和2年度	
	食 数	比率 (%)	食 数	比率 (%)
常 食	31,305	20.4	36,559	21.9
軟 食	57,597	37.6	59,320	35.5
流 動 食	503	0.3	299	0.2
特別食 A	44,990	29.4	49,192	29.5
特別食 B	18,844	12.3	21,583	12.9
合 計	153,239	100.0	16,6953	100.0

賄食

食 種	令和3年度		令和2年度	
	食 数	比率 (%)	食 数	比率 (%)
職 員 食	43,548	99.7	44,314	99.9
付 添 食	15	0.3	27	0.1
合 計	43,563	100.0	44,341	100.0

(2) 栄養指導件数

	栄養指導及び相談件数	食事指導料加算件数
外 来 栄 養 食 事 指 導	609	609
入 院 栄 養 食 事 指 導	216	216
糖 尿 病 透 析 予 防 指 導	319	319
そ の 他 の 栄 養 相 談	64	
保 健 指 導	43	
生 活 改 善 調 理 実 習	0	

(3) 栄養情報提供加算

栄養マネジメント加算 (件)	10
----------------	----

■ 薬剤部

1. 令和3年度 部門目標

・医療事業・診療機能の充実

診療支援機能の強化

効率的な薬剤管理指導

教育研修機能の充実

薬学部実務実習生の受け入れによる
地域医療を担う人材の育成

・医療の質、安全強化

感染対策の更なる質の向上

ICT ラウンド、AST の継続実施

チーム医療の推進

多職種が協同した専門的ケアチーム活動の拡大

ポリファーマシー対策の推進

多剤服用による副作用・相互作用の軽減

・地域との連携強化

地域連携の強化

退院支援、在宅復帰支援体制の充実

・経営管理

経営安定化の強化

不動在庫および採用品の見直し

経営安定化の強化

費用削減の取り組み

2. 主な活動内容と評価

(1) 病棟における薬剤業務実施加算の継続と薬剤管理指導の充実を図る

薬剤業務実施加算については引き続き算定することができた。薬剤管理指導については、8月より産休・育休が1名発生したことから、若干、算定件数は前年度比で減少した。来年度については、育休明けからの復帰までの上半期は現状維持をしていくことが望まれる。

(2) 薬学部実務実習の受け入れによる地域医療を担う人材育成

鈴鹿医療科学大から1名の受け入れを行った。
今後とも積極的に受け入れていきたいと考える。

(3) ICT ラウンドの継続実施およびASTによる抗菌剤適正使用への継続的な介入

ICT ラウンドについては継続して実施することができた。今年度においても昨年度同様に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応に追われた。

ASTによる抗菌剤適正使用への継続的な介入については、前年度を上回る算定をすることができた。今後も継続した取り組み強化が望まれる。

(4) 専門的ケアチーム活動への積極的な関与

がん治療、緩和ケア、栄養サポート、糖尿病ケア、認知症ケア等のチーム活動メンバーとして、積極的に関与することができた。

特にがん治療関連の算定では約100万円の増収となった。

(5) 価格交渉による購入の効率化を図る

本部一括交渉を組み合わせた当院での粘り強い価格交渉により、全年度を上回る効率化を図ることができた。

来年度においても厳しい姿勢で価格交渉をし、より一層原価率を抑える取り組みが求められる。しかしながら、流通改善ガイドラインの締め付けと薬価切り下げによる原価率の悪化が懸念される。

3. 業務実績（主な算定件数）

算定項目	算定件数	増減金額(前年度比)
薬剤情報提供料	65,255	434,630
薬剤管理指導料	5,548	2,179,800
麻薬管理指導加算	493	53,500
退院時薬剤情報管理指導料	630	-35,100
病棟薬剤業務実施加算	5,911	-298,800
抗菌薬適正使用支援加算	2,921	86,000
無菌製剤処理料1	739	70,650
無菌製剤処理料2	1,651	264,400
がん患者指導管理料	234	146,000
外来化学療法加算	692	846,000

<特記事項>

薬剤部関連の算定金額は、上記以外の項目も含めて年度累計額として約 460 万円（前年度比:107.6%）の増加となった。

4. 各種認定資格について（令和 4 年 3 月 31 日 現在）

がん薬物療法認定薬剤師	（日本病院薬剤師会）
外来がん治療認定薬剤師	（日本臨床腫瘍薬学会）
病院薬学認定薬剤師	（日本病院薬剤師会）
生涯研修履修認定	（日本病院薬剤師会）
緩和薬物療法認定薬剤師	（日本緩和医療薬学会）
医療情報技師	（日本医療情報学会）
NST 専門療養士	（日本静脈経腸栄養学会）
骨粗鬆症マネージャー	（日本骨粗鬆症学会）
糖尿病療養指導士	（日本糖尿病療養指導士認定機構）

糖尿病薬物療法准認定薬剤師	(日本くすりと糖尿病学会)
リウマチ財団登録薬剤師	(日本リウマチ財団)
認定実務実習指導薬剤師	(日本薬剤師研修センター)
研修認定薬剤師	(日本薬剤師研修センター)
日本 DMAT 隊員	(厚生労働省)

■ 看護部

1. 部門目標

- 1) 看護実践能力の向上に努め、安心安全な質の高い看護を提供する
- 2) 働き続けることができる職場環境づくり
- 3) 病院経営への積極的な参画

2. 活動内容と評価 () 昨年度

- 1) 看護実践能力の向上に努め、安心安全な質の高い看護を提供する

- (1) 対象ニーズを捉えた確かな看護の実践
- (2) チーム医療を推進し患者の生活を支援

●IC 同席・意志決定支援

急性期 974 件 (887) > 地域包括 254 件 (160) > 外来 44 件 (38) コロナ禍で家族面会禁止が続き病棟以外の指定場所で IC を行うなど安全に配慮した。電話での家族説明は記録することで情報共有した。

●総合カンファレンス

4,917 件 (5,152) 退院支援 434 件 (721) 多職種チームカンファレンスなどコロナ禍で開催できないケースが多発した。地域医療従事者との連携は電話連絡もあったが大きなトラブルはなかった。

●ACP の関わり ※訪問看護認定看護師合格

4 名 (14) で少なかった。現状は委員の介入のみで拡大できていないこと、病院～外来～在宅 (訪問) の連携が課題。知多半島開催の ACP 推進人材研修は 2015 年から計画的に参加、現在 60 名 (医師 4 名看護師 37 名・他職種 19 名) 受講。

●認知症せん妄患者のケア ※認知症看護認定看護師合格

認知症加算実患者 548 件 (490 件)、せん妄ハイリスクケア加算 441 件 (566 件) 算定率 45.7% (40.8%) R4.1 月より認知症 CN の活動によりケア加算 1 で増収。院内デイケアは急性期より地域包括の需要があり週 1 回開催。急性期は術後せん妄を含め、効果的なコンサルテーションの体制づくりが課題。週 16 時間の活動時間確保が求められるため、勤務調整と要員確保が必須。

●コロナ感染症の対応

感染病床管理・発熱外来・接触者外来・陽性者診察など基準作成、運用を感染制御部と協働することができた。日々変わる状況に課長の朝会で確認共有し周知に努めた。院内クラスターなどはなかった。今後も感染対応を視野に入れ夜勤協定違反の改善に向けた人員確保と育成が必要。

(3) 教育環境を充実させる

●R3 年度ラダー

受審 45 名 (64 名) のうち認定申請者 25 名 (29 名) 合格者 21 名 (28 名) 認定申請者の患者事例のまとめについて上司が支援は得られていた。全体のラダー保有者は 158 名中 114 名 72.1% (164 名中 113 名 68.9%) 新人以外でラダー I は 22 名 (25 名) II 52 名 (53 名) III 40 名 (35 名) ラダーレベル IV 0 名。ラダーレベル III 保有で看護師経験、実践力のある一元化の看護師が病棟勤務することは患者の安全管理、異常の早期発見になど現場で実力を発揮している。

●部署教育

ナーシングスキルを活用。アクセス件数=R3 年 20,282 件 (R2 年 8,577 件・R1 年 4,616 年件) 4 月の在職看護師 (正職) で換算すると年間一人あたり 128 回利用 (52.3 回) となり年々活用されている。4 月は新人研修の活用で最も多く、部署専門シートに連動させた学習計画を立てる必要がある。機能、項目についてもタイムリーな教育ツールとして定着している。学会・外部研修は WEB 参加が主で参加者は少なかったが、コロナ禍でオンライン学習に慣れ自主参加できるスタッフが増えてきた。

●転棟転落

合計 142 件 (233 件) で減少。レベル 3b は 10 件中 9 件 (7 件) が転棟転落による骨折で 1 件は寝衣交換時に発生した上肢骨折。7 件が 5F 地域包括ケア病棟で発生。現状として 5F 稼働率は高く療養病床の機能とは違い、患者は在宅に向けたリハビリ期で患者の活動性から考えると夜間の安全な体制などさらに検討が必要。

誤薬発生件数合計 59 件 (83 件) 全体は低下。

DINQL データのタイムリーな活用には、データベース入力が整わず事後確認の評価になっており有効活用まで至っていない現状がある。

2) 働き続けることができる職場環境づくり

- (1) ヘルシーワークプレイスに取り組む
- (2) 部署の課題を明確にして業務改善を行う
- (3) 離職防止に努め定着を推進する

●ヘルシーワークプレイス

医療現場の職業上の危険要因について課長会で共有した。

部署別時間外は (昨年度との比較) 4F (0.25% ↑) > 3F (12% ↓) > OPE (21% ↓) > 2F (34.9% ↑) > 外来 (13.5% ↑) > 5F (12% ↓) 感染病床運用のため 2F-20 床の 11 床運用継続で看護人員は少ないため他部署からの応援で調整。4F は新人を含めた退職者が多く時間外が常態化しているため改善が必要。

計画的有給休暇 5 日間は 100% 取得。平均 10 日以上取得はできても、部署間の差は改善できていない継続課題。感染病床運用により夜勤協定違反が継続している。

●急性期 DAY-PNS・病棟外来一元化連携強化

急性期 2 病棟の DAY-PNS は、期中退職者と、感染病床運用で人員不足があり、常時 PNS はできず一部、機能別も取り入れ応援勤務で調整した。安定した人員確保が課題。

病棟外来一元化スタッフは計画どおり増員。救急外来夜勤も病棟係長が月 1 回程度、勤務する体制は出来た。感染病床を一元化スタッフが担当できることは大きな強みとなった。一元化の病棟業務の内容について今後も検討は必要。

●離職状況・職務満足度調査・キャリア支援面接

R3 度正職員：15.1% (12.5%) 退職者 24 名 (20 名) うち定年 3 名 (3 名)、新卒 6 名が退職で厳しい状況となったが、全てメンタル不調ではなかった。R4 年要員計画は 170 名であったが 153 名で未達。職務満足度調査では「時間外労働が多い」69.0% ↑ (59.3%) 「仕事の疲れが翌日まで残る」80.4% ↑ (80.0%) 「看護業務が確立されている」51.8% ↓ (48.9%) 「有給休暇の取得」は 65.0% ↓ (69.4%) であった。病棟勤務者は新人退職により夜勤協定違反など日々の業務負担が増した。課題は離職予防と人員確保。

キャリア支援につながる面接などタイムリーに関わることができていないため継続課題。

3) 病院経営への積極的な参画

(1) 効率的な病床 管理に向けた 連携強化

(2) 5S 活動の推進

●入院基本料算定維持・適切なベッドコントロール

入院基本料の算定は維持できた。看護部朝会に病床稼動と現状課題を共有するため継続。後半はコロナ感染病床の満床により救急車の受け入れ困難もあった。安全に医療提供ができる体制についてタイムリーに話し合い周知することで協力体制は図れた。

●部署の業務改善・物品配置・定数管理

看護部の企画・改善書作成は 10 件、内容は全て看護部運営会議で報告共有した。

物品破損は 15 件、昨年より減少。PHS 破損 3 件 (6 件) 使用時は落下・水没の危険防止を周知した。ノート PC 液晶破損は 1 件で減少したが 0 件には出来ず。

救急カートは物品を規定数以上に予備セットする傾向があるため確認指導を継続する。

4. 令和3年度看護部研修

(1) 新人看護師研修

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
4	1	木		厚生連新採用者入職オリエンテーション	厚生連本部	10	
	2～5	金月	8:30～17:00	病院オリエンテーション	教育研修委員会	10	
	6	火	8:30～17:00	看護部オリエンテーション	看護管理室	16	
	7	水	8:30～17:00	部署オリエンテーション	部署長	10	
			14:30～16:00	看護倫理	看護部	10	
	8	木	9:00～16:00	標準予防策・清潔操作・針刺し防止	看護部	10	5
	9	金	9:00～10:30	食事介助	看護部	10	
			10:30～12:00	吸引・口腔ケア	看護部	10	
	12	月	9:00～10:30	心電図モニター・心電図	看護部	10	5
			10:30～12:00	AED・DC	ME	10	5
	13	火	9:00～11:00	褥瘡対策	看護部	10	1
			11:00～14:00	排泄ケア・膀胱留置カテーテル	看護部	10	
	14	水	9:00～10:30	医療安全対策	看護部	10	1
			10:30～12:00	経口薬・外用薬・直腸内与薬(処方箋・注射箋)	看護部	10	
	15	木	9:00～10:00	高齢者のフィジカルアセスメント	看護部	10	
			10:00～11:00	認知症患者のケア	看護部	10	
11:～12:00			経管栄養を受ける患者の看護	看護部	10		
16	金	15:00～17:00	演習:事例検討Q&A	看護部	10		
5	6	木	9:00～10:00	電子カルテ	看護部	10	
			10:00～14:00	静脈血採血(実践)点滴・皮下・筋肉・皮内注射	看護部	10	
			14:00～15:30	輸液ポンプ・シリンジ	看護部	10	
	20	木	13:00～15:30	看護記録	看護部	10	
6	3	木	13:00～15:00	人工呼吸器取り扱い・BVM	ME	10	3
			15:00～17:00	急変時対応・救急カート	看護部	10	3

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
7	1	木	14:00～ 16:00	血管確保	看護部	10	
			16:00～ 17:00	リフレッシュ会	看護部	10	
9	30	木	15:00～ 16:00	皮下・筋肉注射実践指導	看護部	9	
			16:00～ 17:00	リフレッシュ会	看護部	9	
10	14	木	16:00～ 17:00	リフレッシュ会	看護部	11	
11	11	木	16:00～ 17:00	リフレッシュ会	看護部	10	
	25	木	15:00～ 17:00	安全安楽のケア・逝去時のケア	看護部	7	
12	16	木	16:00～ 17:00	リフレッシュ会	看護部	8	
1	6	木	16:00～ 17:00	リフレッシュ会	看護部	5	
合計						325	23

(2) ラダーレベル I 研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
5	13	木	13:00～ 15:00	メンバーシップ	看護部	9
	27	木	13:00～ 15:00	意思決定支援	看護部	11
			15:00～ 17:00	チーム医療の構成員である看護師として果たすべき役割(オ)	看護部	12
6	10	木	10:00～ 17:00	薬剤の取り扱い	看護部	11
7	8	木	14:00～ 17:00	看護過程	看護部	11
10	21	木	15:00～ 17:00	日常看護提供場面で理解する看護の倫理綱領と看護業務基準(オ)	看護部	9
			13:00～ 15:00	地域における自施設の役割	看護部	9
合計						72

(3) ラダーレベルⅡ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者	
6	17	木	10:00～ 12:00	医療安全対策	医療安全	4	
			13:00～ 17:00	感染対策	感染制御	4	
7	15	木	13:00～ 15:00	リーダーシップ	看護部	4	
			15:00～ 17:00	人材育成	看護部	4	
	16	金	15:00～ 17:00	看護研究とは	外部講師	4	
10	14	木	13:00～ 17:00	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスとその理解(オ)	看護部	4	
			15:00～ 17:00	地域包括ケアシステムを形成する施設・職種・制度(オ)	看護部	4	
2	Web受講	1時間 配信		薬剤の取り扱い	医療安全	4	
						合計	32

(4) ラダーレベルⅢ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者	
6	24	木	14:00～ 17:00	人材育成	看護部	4	
7	29	木	13:00～ 15:00	ケアの受け手の全体像把握のためのアセスメント統合(オ)	看護部	4	
			15:00～ 17:00	ケアの改善のためのエビデンスの活用(オ)	看護部	4	
8	5	木	13:00～ 15:00	コーチング	看護部	4	
			15:00～ 17:00	急変の予測と救命救急場面の対応(オ)	看護部	4	
	26	木	13:00～ 15:00	アサーション	看護部	4	
			15:00～ 17:00	看護管理	看護部	4	
9	16	木	13:00～ 15:00	ケアの受け手の意思決定における権利擁護(オ)	看護部	4	
			15:00～ 17:00	看取りにおける尊厳の尊重と苦痛の緩和(オ)	看護部	4	
10	7	木	15:00～ 17:00	自施設周辺の地域包括ケアシステムの理解(オ)	看護部	4	
			15:00～ 17:00	協働におけるコンサルテーションと多職種カンファレンス(オ)	看護部	4	
	28	木	13:00～ 15:00	ケアの受け手の状況に応じたフィジカルアセスメント(オ)	看護部	3	
11	18	木	15:00～ 16:30	医療安全取り組み報告	医療安全	4	
	24	水	15:00～ 17:00	看護研究方法/質的データ収集の考え方と具体的方法	外部講師	3	
						合計	54

(5) ラダーレベルⅣ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
9	22	水	9:00～ 13:00	クリティカルシンキング	厚生連	2
10	27	水	13:00～ 17:00	ファシリテーション	厚生連	3
合計						5

(6) 他研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
5	10	月	15:30～ 16:00	本部現任教育指導者研修前交流会	看護部	5
7	29	木	17:15～ 18:15	看護クリパス学習会	医師	15
	31	土	9:30～ 12:00	院内看護研究発表	外部講師	48
8	19	木	17:00～ 18:00	重症度、医療看護必要度	看護部	28
11	15・24	月・水	14:00～ 14:30	看護補助者研修	看護部	13
1	11・27	火・木	15:00～ 15:30	看護補助者研修	看護部	9
3	9・16	水	16:00～ 17:00	R4年度新人看護師教育体制について	看護部	27
合計						145

■ 医療安全管理部

1. 部門目標

- ・多職種間の連携を強化し、医療安全対策の実施と評価を行う。
- ・医療安全報告の推進・共有・分析を行う。
- ・医療安全教育を実施し職員の安全意識の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携を継続する。

2. 活動内容と評価

1) 多職種間の連携を強化し、医療安全対策の実施と評価を行う。

(1) 事例検討について

事例検討会開催件数

単位/件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	3	2	2	2	2	2	3	2	3	3	3	3	30
R3年度	3	3	3	2	3	3	3	3	2	0	3	3	31

※医療安全対策委員会で検討した事例検討数で集計

- ・医療安全委員で構成した事前検討部会担当者が、医療安全対策委員会開催1週間前に事例検討を行った。その事例を医療安全対策委員会で情報共有および再検討を行い、病院全体および部署内で改善を行った。
- ・医療安全対策委員会で検討した結果、課題となった内容については、システム調査やエビデンスなどを確認し改善活動を行った。

(2) 医療安全カンファレンスについて

- ・医療安全カンファレンス実施件数：91件/年
- ・評価カンファレンス実施件数：74件/94件、実施率：78.7%
- ・医療安全管理部門を含むカンファレンス実施件数：2回/年

(3) 医療安全ラウンドについて

- ・医療安全対策委員担当者が1回/月巡視、12回/年実施した。
- ・医療安全ラウンド結果は、医療安全対策委員会で報告しフィードバックした。
- ・11月厚生労働省が実施する「医療安全推進週間」に合わせ、院内で「医療安全強化月間」を立案し、各部署でポスター掲示、巡視、実践、評価を行った。

(4) 各部署目標について

- ・4月目標立案。
- ・5月医療安全対策委員会で情報共有。
- ・年度末評価を行い、未達部分については令和4年度検討する。

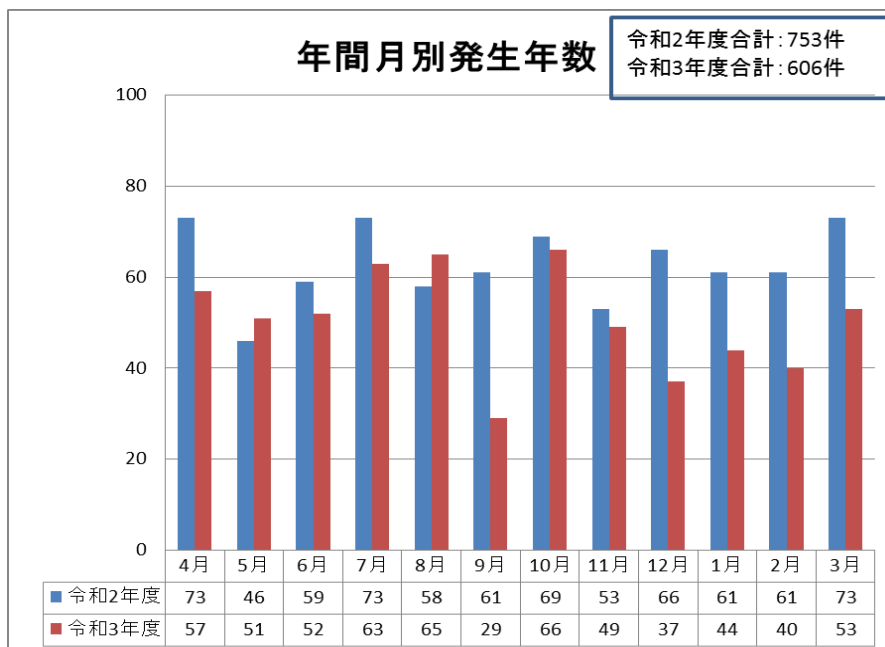
2) 医療安全報告の推進・共有・分析を行う。

(1) 医療安全報告書について

- ・医療安全対策委員会でインシデント・アクシデント発生件数および事例について、12回/年情報共有を行った。

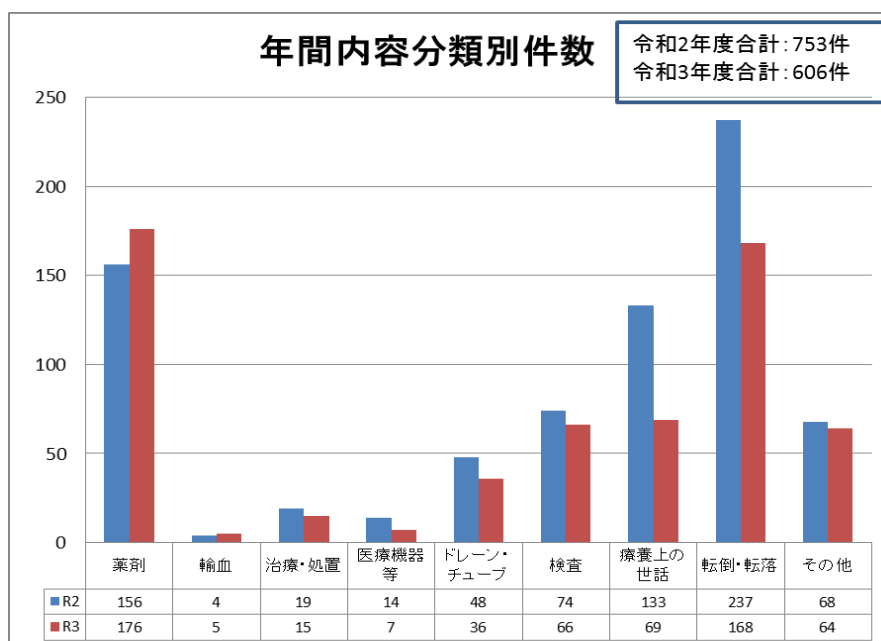
①年間月別発生数について

- ・令和3年度の医療安全報告書は606件であり前年度と比較し147件減少した。
- ・令和4年度は、Goodjob 事例やインシデント報告をしやすい環境について検討する。



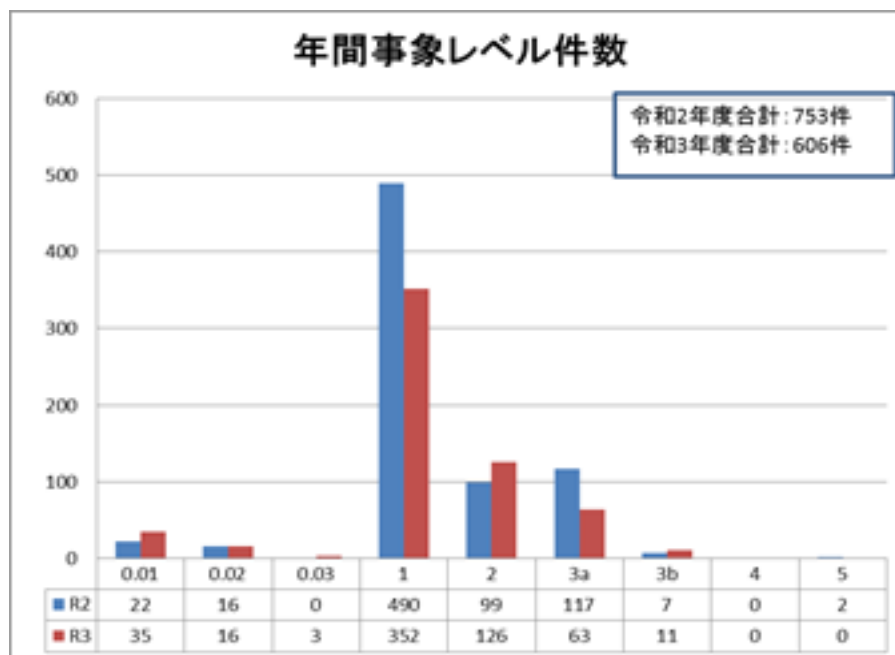
②年間内容分類別件数について

- ・令和3年度最も多かったのは、薬剤で176件（前年度比20件増）、次いで転倒転落が168件（前年度比69件減）であった。
- ・令和4年度は、医療安全ラウンドに加え、看護部リンクナースで定期的なラウンド（内服・注射・転倒転落）を実施する。



③年間事象レベル件数について

- ・令和3年度は、事象レベルでは、レベル1が352件（前年度比138件減）、レベル2が126件（前年度比27件増）、レベル3a（前年度比54件減）である。レベル3bは（前年度比4件増）である。
- ・令和4年度は、事例検討数を増やし未然防止策を検討し改善する。



3) 医療安全教育と職員の安全意識の向上を図る。

(1) 医療安全研修について

①前期医療安全全体研修

- ・日 時：令和3年8月25日（水）～9月28日（火）
- ・内 容：「医療の質・安全管理システム」SefeMasterを使用したe-Learning
「法と医療」
- ・対象者：359名
- ・受講者：358名（1名病欠）

②後期医療安全全体研修

- ・日 時：令和4年2月1日（火）～2月21日（月）
- ・内 容：事例に学ぶ医療安全（当院による事例発表）
医薬品安全使用講習・医療機器安全使用講習・診療用放射線の安全使用講習
- ・対象者：392名
- ・受講者：392名
- ・アンケート結果から検討
アンケート用紙がもったいない。→令和4年度はGoogle Formsに変更する。
多くの職員が関われるテーマを希望する。→令和4年度前期全体研修は「患者・家族とのコミュニケーション」研修とする。

③研修案内は、医療安全対策委員会や各部署に随時配布し情報提供した。

4) 地域の医療機関との連携を継続する。

(1) 医療安全地域連携加算に伴う連携病院相互評価を実施

①医療安全対策加算Ⅰ病院：

- ・令和3年12月20日（月）半田市立半田病院の評価を知多厚生病院が実施した。
- ・令和4年3月30日（木）に当院の評価を常滑市民病院が実施した。

②医療安全対策加算Ⅱ病院：コロナ感染拡大により対応困難となり中止。

令和4年度は、早期計画に計画し開催する。令和4年7月14日予定とする。

③知多半島医療圏8病院医療安全担当者会議（7病院参加）を令和4年3月10日（木）13：30～15：00に開催した。

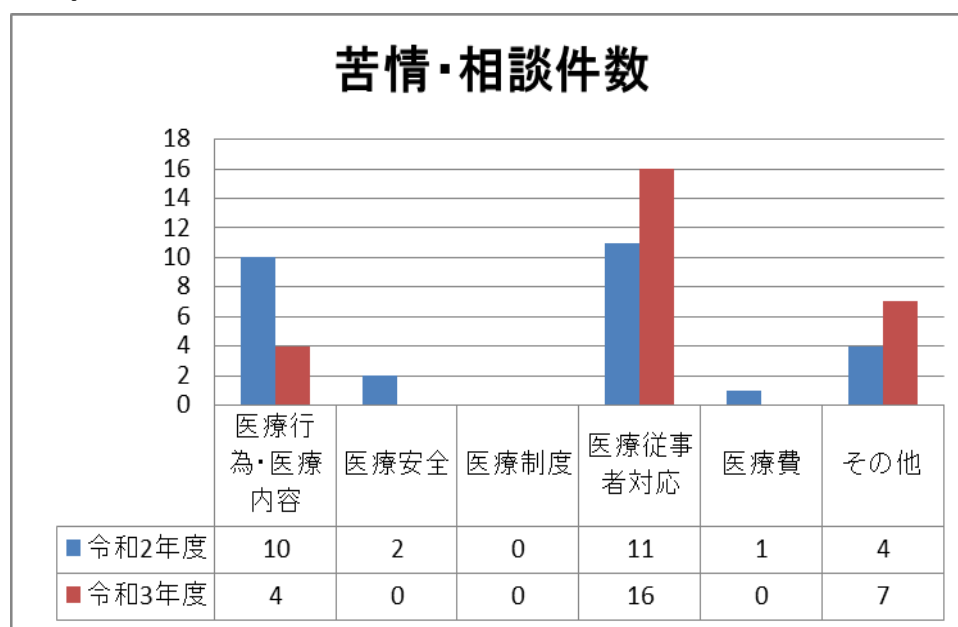
3. 業務実績

- ・医療安全対策加算Ⅰ取得
- ・医療安全地域連携加算取得

4. その他

1) 苦情・相談件数

- ・令和3年度の苦情相談件数は27件であった。その内、医療安全管理者による面談は8件であった。



2) 重大事故（医療事故調査制度報告事例）について

- ・医療事故調査制度の対象事例は0件であった。

■ 感染制御部

1. 部門目標

- 1) 第二種感染症指定医療機関として知多半島南部医療圏での役割を果たす
- 2) 感染制御を推進することで安心な医療を提供する

2. 活動内容と評価

- 1) 第二種感染症指定医療機関として知多半島南部医療圏での役割を果たす
 - ・ 関係機関・地域の医療機関との連携の強化として、知多半島医療圏感染対策連携会議に参加し情報交換・情報共有を行った。また、相互ラウンドを通じて、互いを客観的に評価・指摘できる関係を築くことが出来た。
 - ・ 感染防止対策の情報提供として、国内外の感染症発生動向について委員会等を通じて随時情報提供を行った。
 - ・ COVID-19(新型コロナ)感染症の動向監視として、フェーズの見直しと対策変更の発信を行った。感染病棟の運用管理、備蓄用防護具、備蓄薬品についての検討を行った。
- 2) 感染制御を推進することで安心な医療を提供する
 - ・ ICT チーム活動として、COVID-19(新型コロナ)感染予防対策の実施、研修会を開催した。また、耐性菌患者、医療器具使用者、環境のラウンドを実施し現場にフィードバックした。手指消毒使用量、CV 感染、SSI、細菌検査部門サーベランスを実施し対策を評価した。
 - ・ 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 活動としては、特定抗菌薬使用者、有症者のモニタリングを実施した。また、外来における経口抗菌薬の処方状況の把握を行った。

3. 業務実績

① 地域医療機関・行政との連携

<知多半島医療圏感染対策連携会議>

開催日	参加病院	議題
令和3年6月16日	知多厚生病院 公立西知多総合病院	AUD 調査報告
令和3年9月15日	半田市立半田病院 常滑市民病院	乾性手指消毒剤払い出し状況
令和3年11月17日	石川病院 知多小嶋記念病院	耐性菌検出状況
令和4年 2月16日	杉石病院 みどりの風南知多病院 渡辺病院 国立長寿医療研究センター あいち小児保健医療総合センター 半田保健所長 知多保健所長	職種別カンファレンス

<連携カンファレンス>

開催日	参加病院	内容
令和3年 12月9日	知多小嶋記念病院を訪問	院内ラウンド
令和3年 12月10日	知多小嶋記念病院が来院	院内ラウンド

<相互ラウンド>

開催日	参加病院	内容
令和3年7月30日	公立西知多総合病院が来院	感染防止対策地域連携加算
令和3年10月26日	公立西知多総合病院を訪問	チェック項目表に沿ってラウンド

② 教育・啓発活動

日時	対象	内容
令和3年4月2日	当院入職者	感染対策について
令和3年4月8日	看護師教育ラダー I	感染対策研修
令和3年7月19日～ 7月30日	全職員	手指消毒の基本と実践 (eラーニング)
令和3年12月22日～ 令和4年1月13日	全職員	疥癬について (eラーニング)

③ サーベイランス・ラウンド

- ・ 日本看護協会 DiNQL に参画
- ・ JANIS の SSI、細菌検査部門に参画
- ・ 手指消毒薬使用量サーベイランスの実施
- ・ 環境ラウンドと手指消毒直接観察ラウンドの実施

4. その他

- ・ 季節性インフルエンザ・感染性胃腸炎については、入院患者のアウトブレイクはなかった。

■ 事務部

1. 部門目標

- ・目標回収額達成のための各種対策の検討
- ・目標回収額確保
- ・労働環境改善
- ・業務の効率化・合理化
- ・部署間連携強化（コミュニケーション能力向上）
- ・プロ意識醸成

2. 企画課

(1) 活動内容と評価

1) 新型コロナウイルスへの対応

- ・令和3年5月より患者増に対応して感染症病床を2床増床し10床で運用開始した。
- ・第6波がまん延した令和4年1月以降は発熱外来・接触者外来の患者数が増加し、対応する職員を増員して対応した。
- ・新型コロナウイルスのワクチン接種については地元行政・地域医師会と協力して医療従事者接種、住民接種、職域接種を行った。

2) 新たな支援（補助金）の獲得への対応

- ・新型コロナウイルス関連の補助金については施設課および本部と連携しながら対応し、設備補助金・運営費補助金を申請し受給した。

3) 広報活動の充実

- ・リニューアルした病院ホームページにおいては、従来からの休診情報に加え、新型コロナウイルスの感染予防対策や連休中における発熱外来の臨時診察の告知など、タイムリーな情報発信に努めたことでホームページへのアクセス件数が増加した。

4) 部署間連携強化の取り組み

- ・毎年、JAあいち知多美浜事業部、武豊事業部（平成26年度より）と連携し、JA組合員への健康増進を目的に両町の産業まつりへ参画してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大のためイベントの開催が中止となった。
- ・毎年医師が住民向けに講演を行ってきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により開催を中止した。

5) 次年度事業計画の作成

- ・令和3年7月中旬～8月中旬にかけて各診療科、部門とヒアリングを行い、次年度での各部門の方針や目標など情報収集するとともに、各部門の適正な人員配置等についての考えを確認した。

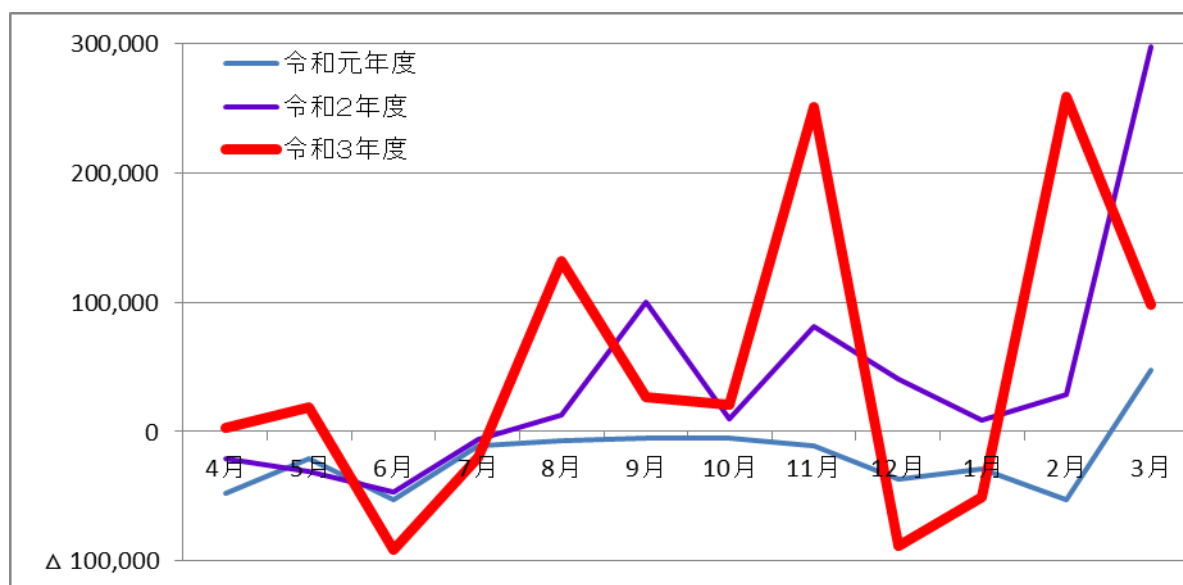
6) 経営管理（収支分析と報告）

- ・毎月、収入・費用を前年対比、予算対比で増減分析を実施し、事務役付者会議や管理者会議、運営会議にて収支報告を行い、収入や費用に対する意識統一を図った。
- ・病床再編により収支改善が図られ、改善状況を継続するためにもわかりやすい資料を提示して職員周知を行った。

(2) 実績報告

1) 目標回収額の状況について

(千円)



回収額推移	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
令和元年度	△ 47,308	△ 21,164	△ 52,821	△ 10,883	△ 7,177	△ 5,372	△ 4,695	△ 10,960	△ 36,591	△ 28,622	△ 52,999	47,315	△ 231,277
令和2年度	△ 21,011	△ 31,160	△ 46,339	△ 6,218	12,589	100,441	10,163	81,211	40,144	8,863	29,082	296,860	474,623
令和3年度	2,662	18,684	△ 91,676	△ 20,066	132,090	26,677	20,902	250,881	△ 87,948	△ 50,750	258,568	97,618	557,642

■ 事務部

3. 医事課

活動内容と評価

1) 新型コロナウイルス対応

- ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の第4波の到来とともにスタートとなり、令和2年度同様、その対応に追われた1年となった。発熱外来、接触者外来を中心とした感染疑い患者の診療や感染症病床への入院患者の診療について、日々変化していく感染状況に合わせた運用調整を随時行った。感染症患者の診療報酬請求についても、特例措置が数多く発出される中、当院において算定可能なものを吟味し、適宜、適切な届出と請求に心掛けた結果、収入を大きく減少させることなく病院経営に貢献することができた。また、令和3年8月より開始した美浜町・南知多町の住民を対象とした新型コロナワクチン接種などについても、その運用構築と実行に参画することができた。

令和3年度末においては、オミクロン株による第6波が終息しつつあるものの、感染症病棟の病床利用率は依然として50%を超えており、令和4年度に向けても令和3年度と同様な状況が継続していくことが予測できるが、令和3年度の各種の取り組みと同様に医事課の枠を超えた全病院的対応に尽力していく。

2) 病床稼働の管理

- ・病床稼働を高水準で維持するため、病床再編前から継続して行っている看護部朝会での病床稼働報告に加えて、病床運営管理委員会を通じて病床稼働の改善案の提案や分析を行った。具体的な取り組みとしては、“救急搬送の受入強化”が挙げられる。緊急入院患者の重要性を分析し、医局会にて救急受入強化の周知を実施した。また、10月には病床稼働が大きく落ち込み、医事課が主導し、全職員に向けた“病床稼働改善に向けた院長発信”を行い、現状とこれからやるべきことを発信した。これらの取り組みによって、11月以降の病床稼働を大きく改善させることができた。また、コロナの影響による感染症病床増床や2階病棟の休床についても経営的視点から収入への影響を分析・報告することができた。今後の患者確保策として、当院の生命線である“救急患者・紹介患者の受入強化”は重要であり、これからも医事課視点での取り組みを進めていきたい。

3) 増収対策

- ・病床再編により許可病床数199床となったことで特定疾患療養管理料の算定が可能となっているため、各医師への算定方法の周知を行い、1ヶ月で400万円の収入を

上げる成果を出した。また、年間を通して都度発出される新型コロナウイルスに関連する特例措置点数の算定に向けた調整を行った。

看護師1名が認知症ケア認定看護師の研修が修了し、認知症ケア加算1の施設基準を満たすこととなったため、令和4年1月より認知症ケア加算1の算定を開始した。DST委員会を通じて各病棟の看護師に変更点などの周知を行い、算定漏れなどの対策を講じた結果、1ヶ月で20万円の増収となった。

令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス対応の中で、入院診療単価、外来診療単価ともに高い状態を維持、収入増加に寄与することができた。

■ 事務部

4.総務課

活動内容と評価

1) 要員管理について

- ・各部署とのヒアリングを実施し、各部署、各職種における適正な人員の把握に努め、要員計画を策定した。

しかしながら、一部の専門職において、目標とする採用者数に届かなかった職種があり、学校訪問などを実施して、継続して募集活動を行った。

- ・初期研修医については、2名の定員に対して2名を確保することが出来た。
- ・今後も、経営状況とのバランスを考えながら、マンパワー確保に向けた取り組みを継続していく。

2) 働き方改革について

- ・医師の働き方改革が進められる中、当院において長年に渡り医師の長時間労働の是正に向けた取り組みを行ってきた結果、A水準の基準値を下回る36協定を締結しつつも、同協定が遵守される環境を維持している。

医師以外の職種においても、36協定の遵守と産業医による職場巡視の活用等により、働きやすい職場環境の整備・維持に努めた。

- ・年5日間の有給休暇取得については、各職場における上半期の取得状況を周知し、時季指定の活用も行った結果、医師を含めた全職員が取得することができた。次年度以降も職員のQOLを高めるべく、取り組みを継続する。

3) 院内保育所について

- ・本年度も、ママさん職員が安心して働くことが出来るよう、より預けやすい環境整備に努めた。

職員の知識向上の他、玩具の更新などを進めた結果、利用満足度も高い水準を維持している。

- ・定期的に保育所委員会を開催し、保育方針の検討やママさん職員からの意見聴取をするなどの取り組みを継続した。

■ 事務部

5. 施設課

活動内容と評価

1) 新型コロナウイルス感染症補助金の有効活用

多数あるコロナ関連補助金を有効活用し、掛かり増し経費や補助金適用可能な通常購入品を落とすことなく申請を行い、経費支出の削減を図った。併せて、要綱を遵守し、新型コロナウイルス感染症に使用する物品のみ申請を行った。

2) 災害拠点体制強化

毎年実施している災害訓練では、例年地域医療を守るための連携強化を目的として、美浜町や南知多町、半田保健所、近隣病院ならびに知多南部消防組合消防本部と協同して地域災害拠点病院災害連携訓練を行ってきたが、コロナ禍のため、院内訓練のみとした。発災時に災害対策本部が重要視する内容を優先的に報告できるよう受付係となる事務職員のスキル向上に努めた。

知多半島医療圏内にある桃陵高校へ災害講話およびグループディスカッションを行い、啓発活動を行った。

3) 費用削減

点灯時間の長い照明をLEDに変更し、省エネ効果に努めた。重油の仕入れ先を複数社もち、常に安価な業者にて購入できるよう努めた。

また、他の厚生連病院でメーカーサービスエンドとなった機種 of 更新時に譲渡いただくことで故障時のバックアップとして当院の更新計画を後ろ倒しにすることをを行った。

4) 施設整備計画

医療機器の購入では、厚生連8病院の購入品目を洗い出し、メーカー毎に導入実績およびその病院の特徴にあった内容を踏まえながら一括交渉を行うことで、過去最安値を達成できた。

■ 医療情報部

1. 部門目標

- ・電子カルテの安定稼働
- ・医療安全の充実、診療録管理の充実により、医療の質向上を目指す
- ・経営の安定化に向けた取り組み強化に向けて、個人のスキルアップと人材育成を行う
- ・コンピューターを使用した自動化による業務のスリム化への取り組み

2. 活動内容と評価

1) 電子カルテの安定稼働について

- ・定期再起動による停止も含め、電子カルテの障害停止はありませんでした。

2) 経営の安定化に向けた取り組みについて

- ・電子カルテ、医事会計システムに蓄積されたデータから、種々のデータを抽出し、経営分析の基となる数値の提供を行った。

3) 個人のスキルアップについて

- ・業務の自動化に関するソフトウェアを使用するスキルを身につけるために、勉強会などに参加、簡単な業務において一部自動化を行った。

3. 業務実績

- 1) 業務支援となるツールの作成において、ME 機器の貸し出し管理のソフトウェアを作成し、借り受け者の手間の軽減に貢献した。

■ 保健事業部

1. 部門目標

- ・新たな保健収益増収案の検討
- ・健診の効果的な運用と質の向上
- ・受診者の立場に立った快適な健診環境の提供

2. 活動内容と評価

1) 保健収益増収案の検討

- ・武豊町より「乳子宮がん検診の個別検診を、令和3年度予算に組み込む予定」との通知の通り、令和3年度は各10件ずつ実施することができた。
- ・南知多町のがん検診のうち、大腸・肺がん・前立腺がんを個別でも受診できる契約を締結した。
- ・美浜町がん検診で、乳子宮がん検診に加え、大腸・肺がん・前立腺がん検診を新たに締結した。
- ・脳ドックの施設認定に必要な症例のうち、申請が可能な脳動脈瘤、無症状脳梗塞の症例があり日本脳ドック学会施設認定を取得した。
- ・令和3年度より、人間ドック専門医が月～金1日15枠担当されたことにより、令和2年度週68枠から令和3年度は週75枠（110%）となり増収となった。
- ・令和元年8月まで実施していた午後の特定健診を令和3年7月より再開し若干増やすことができた。
- ・全国健康保険協会の保健指導活動による生活改善支援を令和3年度も引き続き実施した。令和2年度はコロナ禍の影響もあり、動機づけが前年対比87.5%と減少していたが、令和3年度は、動機づけ、積極的にも前年度を上回る事ができた。

全国健康保険協会の保健指導活動（特定保健指導）			
	令和2年度（名）	令和3年度（名）	前年対比
動機付け	28	34	121.4%
積極的	23	24	104.3%
合計	51	58	113.7%

2) 会計監査人監査に向けた継続的な準備

- ・健診センターの収入管理を正確に実施。
- ・会計・収入管理マニュアルの作成を実施。
- ・その他、各種マニュアルの作成を随時実施。
- ・人間ドック機能評価受審の更新について検討中。

3) 人間ドック機能評価認定施設の更新準備を行う

- ・受診者アンケートを年2回（8月、2月）に実施した。
- ・検査結果の3週間以内の送付は、人的不足により達成できず。
- ・フォローアップの追跡調査の受診勧奨が未実施。

*令和3年度精検受診率

①項目	② 精検受診率 (A/B)	要精検者数(A)	合計(B)	自院受診	他院受診	未受診 ・未把握
胃がん検診	41.3%	189	78	59	41	111
肺がん検診	46.9%	177	83	71	29	94
大腸がん検診	43.9%	98	43	58	42	55
子宮がん検診	64.0%	25	16	94	6	9
乳がん検診	85.6%	146	125	91	9	21
前立腺がん検	51.7%	29	15	80	20	14

業務実績

1) 受診者数と収入（健康管理センター収入報告書月次より）

	受診者数（延人数）（通計）			収入（通計）		
	令和2年度 （名）	令和3年度 （名）	前年 対比	令和2年度 （円）	令和3年度 （円）	前年 対比
J A 関連	1,349	1,353	100.2%	23,773,920	23,171,791	97.5%
協会健保	645	726	112.6%	15,202,090	16,307,173	107.3%
市町村	940	1,168	124.3%	14,578,108	18,431,688	123.9%
その他 （企業・ 個人等）	2,790	3,205	114.9%	32,715,937	35,584,075	108.8%
予防接種	557	240	43.1%	2,746,180	976,870	35.6%
総合計	6,281	6,692	106.5%	89,016,235	94,471,597	106.1%

*令和2年度：コロナ禍で4～5月健診実施に制限があり。

3. その他

1) 地域健康推進活動について

- ・ JA 共済健康管理集団保養活動、美浜町・武豊町の産業祭りはコロナ禍のため活動できなかった。

■ 地域医療福祉連携部

1. 部門目標

(1) 質の高いサービスの提供

- ・ 個々の資質向上と人材育成
- ・ マニュアルの遵守

(2) 活気ある職場づくり

- ・ 働きやすくコミュニケーション良好な職場づくり
- ・ 適正な勤務管理

(3) 地域の医療・福祉・介護との連携強化

- ・ 地元医療機関・施設等との連携
- ・ 地域連携の運用の充実

(4) 病院経営への積極的な参画

- ・ 施設基準維持における対策
- ・ 当院の福祉・介護機能の有用活用

2. 地域医療福祉連携室

(1) 活動内容と評価

1) 利用者に活かす医療講座の開催

- ・ 例年3回/年(6月10月2月)の開催企画であるが、新型コロナウイルス感染予防対策のため年1回の開催となった。

第1回 令和3年11月18日(木) 13時30分～15時

テーマ：『疥癬について』

講師：感染管理認定看護師 仮屋小百合

参加者：33名

2) アドバンスケアプランニングの普及推進

- ・ 愛知県知多半島医療圏近隣7病院（中京病院、南生協病院、公立西知多総合病院、国立長寿医療研究センター、半田市立半田病院、常滑市民病院、知多厚生病院）と「知多半島において、アドバンスケアプランニングとエンドオブライフディスカッションを推進する会」に参加した。幹事病院（中京病院）が中心となり定例会（年2回）で各施設での取り組み状況を情報共有し、WEBでの研修会に参加した。

3) 医師会症例検討会ミニレクチャーと合同カンファレンスの開催

- ・ 美浜町及び南知多町の医師会と知多厚生病院で、病診連携体制を構築することを目的とした症例検討会ミニレクチャーを年11回計画した。新型コロナウイルス感染者の増加（9月）とオミクロン株の拡大（2月）により2回休会となり、9回の開催となった。合同カンファレンスは、令和2年度に引き続き新型コロナ感染拡大を鑑み開催を中止した。

4) 地域包括ケアシステム参画

- ・ 美浜町と南知多町の地域包括ケアシステム推進協議会に参加し、地域包括ケアシステム構築に必要な連携課題について検討した。

3. 地域連携課

(1) 活動内容と評価

1) 質の高いサービスの提供

- ・ 紹介患者の窓口対応は、予約・予約外にかかわらず対応する体制とし、患者サービスの向上に努めた。

2) 関係機関との連携強化

- ・ 関係機関に訪問し、レスパイト入院の受け入れ・コロナ患者の受診対応等の案内を行った(訪問回数 50 回)。関係機関と連携が強化されたこと、皮膚科への紹介件数の増加等により、紹介件数は 2,077 件と昨年度より 189 件増加した。頭部画像検査(CT/MRI)の予約運用を構築し、12月より予約を開始した。

(2) 実績報告

1) 紹介実績

- ・ 別表にて

4. 医療福祉相談課

(1) 活動内容と評価

1) 相談援助技術の向上

- ・ 厚生連ソーシャルワーカー会や看護協会等の研修会に、職務レベルに応じて参加した。私的に参加希望する研修の参加を推奨支援したことで、全ての職員が専門職のスキルアップに向けた研修に参加した。相談援助レベルに応じた目標マネジメントの目標設定ができるように支援した結果、各自が目標達成できた。
- ・ マニュアル遵守を目標に勉強会でインシデントについて学んだ。定期ミーティングでレベル 0 を共有する仕組みを作り運用した。
- ・ 各業務において部署員が代行できることを目的に下記業務の共有を実施した。
 - ①短期入院の業務のまとめ方の手順
 - ②介護支援連携指導の算定手順
 - ③特養施設との退院調整の手順
 - ④ケース担当者の不在時を想定したカルテ記載

2) 働きやすい職場づくり

- ・ 病棟専任担当者を各病棟 1 名→2 名の配置に変更、休暇時でも一般床検討会を行える体制とした。また、レスパイト受入れ、転院受入れが複数で行えるように係長からスタッフへ指導を行い、業務量の均衡を図った。
- ・ 周知連絡事項の記載欄を設け、不在スタッフが出勤後に確認できる仕組みを構築運用した。

3) 地域の医療、福祉、介護との連携

- ・ 各医療機関、施設の新型コロナウイルス対応状況や受入基準を把握。感染制御部と共有して、個別の退院支援のために活用した。
- ・ レスパイト入院の利用促進のためケアマネジャーへの案内書を見直し、手順書に沿って受入を行った。結果、美浜町・南知多町以外にも武豊町・常滑市から利用されるようになった。

4) 病院経営への積極的な参画

- ・ 入退院支援加算は588件(令和2年度600件)算定でき前年とほぼ同水準であった。
- ・ 地域包括ケア病棟施設基準の維持のため、退院時共同指導カンファレンスの対象者となる患者の確認やカンファレンス実施状況を毎月注視して病棟に声掛けを行い、算定要件を達成した。

(2) 実績報告

1) 相談支援延べ件数(退院支援カンファレンス含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	909	762	816	757	829	813	794	839	884	832	871	1,121	10,227
令和2年度	802	736	1,016	1,002	838	940	988	773	857	856	923	1,037	10,768

2) 入退院支援加算1算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	69	38	43	49	40	51	40	48	63	46	40	61	588
令和2年度	44	37	48	51	35	50	74	44	62	44	51	60	600

3) 介護支援連携指導料(1回目・2回目)算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	7	5	5	5	8	9	8	6	5	2	5	9	74
令和2年度	11	12	23	21	17	8	9	4	7	10	11	7	140

4) 退院時共同指導料2算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	5	2	7	3	0	7	3	4	4	1	5	5	46
令和2年度	0	1	5	5	1	1	8	7	5	1	1	9	44

5) 患者サポート体制充実加算（総合相談窓口）相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和 3 年度	3	4	8	8	5	5	4	8	8	4	5	6	68
令和 2 年度	7	8	6	6	11	9	5	4	3	8	5	8	80

6) 国土交通省短期入院利用人数

- ・ 利用人数：1名 利用回数：1回 延べ利用日数：6日

7) 主な会義・出張の件数

会議・出張・研修（開催件数）	
委員会	54
院内会議・ミーティング	41
一般病床退院検討会	294
カンファレンス（個別ケースを除く）	79
総合相談カンファレンス	18
医療福祉相談課ミーティング	37
療養病床入退所判定会（7月末まで）	0
医療機関・福祉施設・教育機関等 訪問	20
院外会議（オンライン含む）	18
院内・院外研修会（運営含む）	27

8) 学生等の受け入れ

受入なし

5. 介護管理課

(1) 活動内容と評価

1) 各種届出等の作成

- ・ 運営規程変更の届出書類を作成し、提出した。
- ・ 請求業務は、複数体制で行えるように取り組んだ。

2) 監査対応

- ・ 特になし。

(2) 実績報告

1) 各種届出内容

▽通所リハビリテーション

- ・ 令和3年6月1日 運営規程 変更

2) 監査

- ・ 特になし

6. 居宅介護支援事業所

(1) 活動内容と評価

1) 質の高い居宅介護支援の提供

- ・ ケアマネジメント能力向上のため、部署員全員が研修会へ参加し自己研鑽に取り組んだ。
- ・ ヒヤリハット報告を部署内で共有する仕組みを整え、運用した。事業所閉鎖のためマニュアル・手順書の変更まで至らなかった。

2) 活気あふれる職場づくり

- ・ 感染症を想定した事業継続計画を策定し運用した。
- ・ 有給休暇が計画的に取得できた。

3) 医療機関との連携の強化

- ・ 美浜町の電子連絡帳を活用して利用者の情報共有を図った。特に医療依存度の高い方について積極的に利用促進し利用者支援に活用した。

4) 経営への積極的な参画

- ・ 事業所の施設基準が維持のため令和3年度制度介護報酬改正への対応を行った。虐待ケースの対応のための基本方針を運営規程に定めた。
- ・ ターミナル期にある利用者を年間4件受け入れた。

(2) 実績報告

1) ケアプラン作成件数（予防含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	64	61	62	61	63	63	43	13	0	—	—	—	413
令和2年度	64	67	67	69	67	68	72	72	75	74	71	67	833

2) 一人当たり担当件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和3年度	22.9	20.3	20.7	29.5	31.5	31.5	21.5	6.5	0.0	—	—	—	20.5
令和2年度	29.0	30.0	29.5	30.0	29.5	29.5	31.0	31.4	32.9	32.4	31.0	29.5	30.5

3) 訪問調査件数（美浜町委託事業）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 事業所廃止について

- ・ 介護保険制度創設時に地域で居宅介護支援事業所が不足していた上に、所属している介護支援専門員の基礎資格が福祉職のであり医療依存度の高いケース対応が難しいことから当院で居宅介護支援事業所を運営するようになった。
近年、当院で主任介護支援専門員の確保が困難となったことに加え、地域の居宅介護支援事業所が充足し、医療依存度の高いケースの対応が可能になったことから、令和3年12月末を持って事業所休止、令和4年3月末に事業廃止となった。

7. 訪問看護ステーション

(1) 活動内容と評価

1) 質の高いサービスの提供

- ・ グリーフケアを7件実施し、家族に充実感や安心感を与えることができた。デスクカンファレンスを2件開催し、在宅看取り利用者の質を評価した。
- ・ 退院当日の訪問は16件であった。早期に在宅療養環境の整備し、24時間対応を行うことで利用者家族の安心につながった。
- ・ 利用者満足度調査の結果は、状態に合わせたケアの提供、訪問の体制・状態などの説明、精神的支えに関する項目で「やや不満」があった。患者家族とのコミュニケーションによる信頼関係の構築が必要である。
- ・ リスク発生をゼロとする目標であったが、FAX誤送信2件、内服過剰投与1件、業務用携帯置き忘れが発生した。FAX送信手順の見直し、カンファレンス実施後6Rの再確認、業務用携帯の取り扱い方法を周知徹底し、再発防止を図った。
- ・ 院外研修会13件、伝達講習実施、看護協会（知多地域）ACP事例発表など人材育成に取り組んだ。

2) 働きやすいコミュニケーション良好な職場環境作り

- ・ 計画的に有給休暇取得出来るよう計画することで、有給休暇は平均10日取得できた。
- ・ 休憩場所の確保、休憩時の電話対応は待機対応とし、休憩時間を確保した。

3) 病院経営への積極的な参画

- ・ 看護体制強化加算は継続維持、退院時共同指導算定件数は29件（昨年5件）と施設基準は維持でき、訪問看護新規利用者は昨年対比111.8%（リハビリ100.5%）であった。

(2) 実績報告

		医療		介護		総人数	総件数
		実人数	延件数	実人数	延件数	実人数	延件数
令和3年	4月	18	80	84	548	102	628
	5月	22	88	85	515	107	603
	6月	24	143	88	585	112	728
	7月	21	101	88	562	109	663
	8月	18	100	93	554	111	651
	9月	17	85	92	602	109	687
	10月	19	115	95	647	114	762
	11月	17	102	83	566	100	668
	12月	21	101	84	585	105	686
令和4年	1月	18	75	86	566	104	641
	2月	22	99	83	527	105	626
	3月	17	88	82	584	99	672
合計		234	1,177	1,043	6,838	1,277	8,015
月平均		19.5	98.0	86.9	569.0	106.4	667.9

新規		自宅		医療機関		施設		合計
		医療	介護	医療	介護	医療	介護	
令和3年	4月	2	2	1	1	0	0	5
	5月	3	3	0	2	0	0	8
	6月	1	2	0	4	0	0	7
	7月	1	2	1	2	0	0	6
	8月	1	5	2	3	0	0	11
	9月	2	3	1	0	0	0	6
	10月	4	3	1	1	0	0	9
	11月	1	0	4	0	0	0	5
	12月	2	1	3	2	0	0	8
令和4年	1月	0	1	3	4	0	0	8
	2月	0	1	2	3	0	1	7
	3月	1	1	4	6	0	1	13
合計		18	24	22	28	0	2	94
月平均		1.50	2.00	1.80	2.08	0.00	0.17	7.48

医療		南知多町	美浜町	武豊町	合 計
令和3年	4月	7	11	0	18
	5月	11	11	0	22
	6月	12	11	1	24
	7月	12	9	0	21
	8月	8	10	0	18
	9月	8	8	0	16
	10月	12	7	0	19
	11月	12	5	0	17
	12月	11	7	0	18
令和4年	1月	11	8	0	19
	2月	12	9	0	21
	3月	11	6	0	17
合計		127	102	1	230
月平均		10.5	8.5	0	19.1

住民登録地別利用者数（介護予防を含む）

介護		南知多町	美浜町	武豊町	常滑市	合 計	総人数 (医療+介護)
令和3年	4月	54	27	1	0	82	100
	5月	52	31	0	0	83	105
	6月	54	31	1	0	86	118
	7月	51	34	1	1	87	108
	8月	55	33	1	1	90	109
	9月	55	34	1	0	90	125
	10月	55	36	1	1	94	131
	11月	54	28	0	1	83	125
	12月	52	30	1	0	87	128
令和4年	1月	58	25	1	1	85	118
	2月	56	24	1	1	82	120
	3月	55	25	1	0	81	121
合計		651	331	10	6	1,030	1,408
月平均		54.2	27.5	0.8	0.5	85.8	117.3

院外活動報告

学会・研究会発表……………	96
院外講演会・勉強会講師……………	97
論文・雑誌掲載……………	97

■ 学会・研究会発表

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会（JSPEN） パネルディスカッション 「栄養療法に漢方を活かす」	丹村 敏則 （医師）	令和 3 年 7 月 21 日 オンデマンド WEB 発表 本会場：神戸ポートピアホテル
第 71 回日本東洋医学会学術総会 シンポジウム 「急性期疾患における漢方」	丹村 敏則 （医師）	令和 3 年 8 月 15 日 オンデマンド WEB 発表
第 8 回日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会 セミナー講演 「栄養療法担当スタッフのための漢方セミナー」	丹村 敏則 （医師）	令和 3 年 10 月 10 日 オンデマンド WEB 発表
第 49 回 JA 愛知厚生連 「EPDS（エジンバラ産後うつ病自己評価票）高値の褥婦 A 氏の産後ケア入院中の関わりを振り返って」	高井 美由紀 （助産師）	令和 3 年 10 月 31 日 録画配信
JA 愛知厚生連相互啓発研修会 「糖尿病患者指導に活かすための療養および治療における影響因子の検討」	高松 真衣 （薬剤師）	令和 3 年 11 月 3 日 WEB 発表
第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 術前の運動負荷背量が臍頭十二指腸切除術後の骨格筋量減少を最低限に妨げた一例	内田 周汰 （理学療法士）	令和 3 年 7 月 21 日 兵庫県神戸市 WEB 発表
第 26・27 回合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 長期のリハビリと胃瘻栄養で経口摂取可能となった反復性誤嚥性肺炎の一例～退院後 2 年肺炎発症せず経過して～	茶谷 公治 （言語聴覚士）	令和 3 年 8 月 20 日 名古屋市 WEB 発表

■ 院外講演会・勉強会講師

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
第 21 回日本在宅医療研究会 特別講演 「在宅医療と漢方」	丹村 敏則 (医師)	令和 3 年 11 月 6 日 WEB 講演
旭川医療従事者 WEB セミナー 特別講演 「チーム医療に活かす漢方」	丹村 敏則 (医師)	令和 3 年 12 月 3 日 WEB 講演
西尾市医師会講演会 特別講演 「フレイル対策と漢方」	丹村 敏則 (医師)	令和 4 年 1 月 18 日 WEB 講演

■ 論文・雑誌掲載

発行／タイトル	掲載者／職種	日付／ページ
漢方と最新治療 第 30 卷 2 号 「栄養サポートとチーム医療」	丹村 敏則 (医師)	令和 3 年 5 月 25 日発行 P79 - P84
Taylor & Francis 「 A Case of Neuroretinitis Following COVID-19 Vaccination 」	吉田 直子 (医師) 塚田 明世 (医師)	October 2022

